外機密

電信寫

有十二日回覆

昭和18　一五七八　（暗）

松岡外務大臣

第六五八號

伯林　六月九日後発

本省　十日前着

大島大使

日、蘭印交渉ニ關シテハ當地新聞ニ於テモ相當注意ヲ引キ居リ且又大東亞共榮圏ニ關スル諸問題ニ付隨時獨側ニ說明スル必要モアリ最近我方ニ送付越セル趣ナル蘭印側回答及交渉經緯概要電報相煩度シ（了）

S 2.2.0.0 -16　2064

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三次ノ会用

五月二十日芳澤代表ヨリ蘭側代表ニ提出セル日本ノ蘭印物資買付数量案及之ニ對スル蘭側代表ノ回答セル對日輸出量及對日輸出希望一覧表

（註）蘭側回答文中對日輸出量ヲ一ケ年分ノ數量ト月割數量トノ二種ニ分チ居ルカ一ケ年分ハ本年一月ヨリ十二月迄ノ輸出總量ヲ指シ月割トセルモノハ一九四一年ノ殘余ノ期間（七月以降六ケ月ト見テ可然）丈ケト解スヘシ

六月九日　通商局第六課

（△印ハ十三品目要求濟ノモノ）（單位瓲）

品目	我方提案ノ一ケ年間對日輸出要求量	今回蘭側ノ回答セル對日輸出量ノ一ケ年分輸出量	同上一九四二年ノ殘余ノ期間ニ於ケル月割輸出量
1 珈琲	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
2 南洋材	六四〇〇〇	六四〇〇〇	
3 縞黒檀	二〇〇〇	二〇〇〇	
4 樹脂ダマル、コパル	一、二二〇		一二二
5 カポック纖維（種付ヲ含ム）	一、〇〇〇		一〇〇
6 棉子 カポック種子	四二〇〇		四二〇〇
7 玉蜀黍	八〇〇〇〇		

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

8	コプラ	三〇〇〇		
9	カツサバ、ルート	八〇〇〇	八〇〇〇	
10	藤	一〇〇〇		
11	パーム油	二〇〇〇		
12	製綿用棉花	一六〇〇	一六〇〇	
13	タンニン材	四〇〇〇		
14	砂糖	一〇〇〇〇	一〇〇	
15	生護謨	二〇〇〇	一二五	
△				
16	錫（地金）	三〇〇〇		
17	ボーキサイト	四〇〇〇〇		
18	ニッケル鉱	一二〇〇〇		

（註）我方ニ於テ本年一月ヨリ六月迄ニ九九〇〇屯輸入スルコトトナルカ故七月ー十二月分ハ三、一〇〇屯ナリ

S 2,2,0,0 -16　2067

（註）本年六月迄ニ三〇〇〇屯對日輸出濟トナルカ故残七〇〇〇屯ナリ

（註）本邦商社日蘭商事會社ト「ボーキサイト」開發會社トノ契約ニ於テ來年ヨリ毎年四〇〇〇〇屯買取ニ付長期契約アリ「フアン、モーク」キ和蘭側關係者ノ一人トシテ事情良ク承知ノ者

S 2,2,0,0 -16　2068

B-0156

△19	満俺鎖	二〇〇〇〇	（註）隣側ハ従來一ケ年六〇〇〇〇屯以上ノ對日輸出不可能ナル旨主張シ居タリ
△20	工業塩	一〇〇〇〇〇	（註）本邦一商社ヲシテ三ケ年間ノ長期買付契約ヲ爲サシメタリ
△21	ヒマシ油	六〇〇〇	（註）「キニーネ」ハ我希望通輸出スヘシト申出アリタルモノナリ
△22	規那皮	六〇〇	
23	キニーネ	六〇	
△24	鏡	一二〇〇〇	

（註）一八〇〇〇〇屯トセルコトハ客年向井忠晴ノ交渉ニ依リ契約シタル數量ニシテ日、蘭兩代表ノ最近ノ會談ニ於テ隣側代表ハ此數量ノ對日輸出可能ナリト申出テ且ツ長期契約ヲナスモノナラハ更ニ増産シテ對日供給量増加モ考慮シ得ヘシト稱シタルニ付我方トシテハ五ケ年間或ハ其以上ノ長期契約トスルモ可ナルヲ以テ結局一ケ年二八〇〇〇〇屯迄買付クル用意アルコトヲ通告シ置タリ

然ルニ今回ノ回答ニ於テ鎖油ニ付テハ日本輸入業者ト石油會社トノ交渉ニ俟ツヘキ事項ニシテ和蘭政府ハ石油資源ノ現狀ヨリ見テ生産増加ヲ許サストノ意見ナリト申出來レリ

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

25	黄麻	千二〇〇	千圓
26	蜜蠟	（三二〇千圓）三二〇	千圓
27	豆類	（一五〇千圓）一五〇	千圓
28	コア	（八〇千圓）八〇	千圓
29	貝殻	（一〇〇千圓）一〇〇	千圓
30	蒟蒻芋	（一五〇千圓）一五〇	千圓
31	屑鐵（ブリキ屑ヲ含ム）	六〇〇〇トン	千圓
	（註）日本ノ國内消費ニ充當セラレ且ツ和蘭ノ同盟		
	②向ニ必要トセサル限リ對日輸出ニ反對ナシ		
32	(旧)ムモリブデン鑛、ムクロー		
	ム鑛、ムタングステン鑛、雲母（高		
	級品）ニ付テハ對日輸出上蘭印政府カ積極的努力ヲ爲スコトヲ確		
	約セラレ度		
	（蘭）之ニ對スル蘭側回答ニ於テ此等鑛物ノ採掘狀態ニ鑑ミ將來性ニ		
	大ナル期待ヲ懸ケ難シト雖ス		

33	ピクチ、コークス	二五〇〇〇	トン
	之ニ對シ鑛油ト同樣日本輸入業者ハ、石油會社ト交渉セラレ度ト回答シ來レリ		
34	糖蜜	六〇〇〇〇	トン
	之ニ對シ日本政府ハ蘭印ヨリ正常量ノ三十倍ノ輸入ヲ計畫セラレ居ルカ之ニ付テハ確固タル意見ヲ開陳シ難シト回答越セリ		
35	サイザル麻	四〇〇〇	トン
	之ニ對シ日本政府ハ正常量ノ二十五倍ノ輸入ヲ計畫スルカ之ニ付テハ何等意見ヲ申述ヘ難シト回答越セリ		

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外務省

8

六月九日　通商局第六課

五月二十日芳澤代表ヨリ蘭側代表ニ提出セル日本ノ覚書
物資買付數量案及之ニ對スル蘭側代表ノ回答セル對日輸出數量及對日輸出希望一覧表

（註）蘭側回答文中對日輸出二種ニ分チ居ルカ一ケ年分ノ數量ト月割數量トノ總量ヲ指シ月割トセルモノハ一九四一年ノ殘余ノ期間（七月以降六ケ月ト見テ可然一丈ケト解スヘシ

S 2.2.0.0 -16

2073

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

（単位㌧）

	品目	我方提案ノ一ケ年間對日輸出要求量	今回蘭側ノ回答セル對日輸出量
1	珈琲	一〇〇〇	蘭側ハ一ケ年一九四一年ノ殘余ノ六ケ月間輸出セラレ度ト希望スル月割輸出量
2	南洋材	五〇〇〇	何等「リマーク」ナシ
3	縞黒檀	三〇〇	蘭側ハ一ケ年二〇〇〇屯ノ割合ニテ本年殘余ノ六ケ月間輸入セラレ度ト希望ス
4	樹脂ダマル	一三〇	日本國内消費トセラルル限リ對日輸出ニ反對ナシ
5	カポック繊維（種付ヲ含ム）	一〇〇	
6	カポック種子	五〇〇	
7	玉蜀黍	八〇〇〇	

8	コプラ	三〇〇〇	
9	カッサバ、ペレット	一〇〇〇	無條件
10	籐	一〇〇	
11	パーム油	二〇〇	
12	製綿用棉花	一〇〇	無條件
13	タンニン材	五〇〇	
14	砂糖	一〇〇〇	日本政府ハ一九四一年ノ殘余ノ期間中一ケ年一二、〇〇〇屯ノ割合ニ於テ輸入セラレ度
15	生皮	二〇〇	
	誤	一二、〇〇〇	

（註）客年東京ニ於テ和蘭政府ヨリ二〇〇〇屯ノ對日輸出方承諾ヲ取付ケ居リタルニ本年二月八日蘭印經濟長官ヨリ石澤總領事ニ對シ月割一、六〇〇屯ト爲セリ通告シ來リ其後交渉セルモ增量ニ今回之ヲ前記ノ通一二、〇〇〇屯トスヘシト通告シ來リ遂ニ今回ノ如ク決定セリ

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

輸入スルコトトナルカ故七月ー十二月分ハ三、一〇〇屯ナリ

16 錫（地金）　三、〇〇〇　三、〇〇〇

（註）客年東京ニ於ケル交渉ニ依リ和蘭政府ヨリ一ケ年間三、〇〇〇屯ノ對日輸出方保障ヲ取付ケタルニ付直チニ本邦一商社ヲシテ十ケ月間ノ長期契約ヲ爲サシメタリ而シテ十月現物買トシテ右長期契約分ト全然別個ニ三、〇〇〇屯買付タルカ其積殘リ三、〇〇〇屯ヲ本年一月輸入セリ

然ルニ本月ヲ以テ右長期契約滿期トナル爲七月ヨリ向フ一ケ年間ノ契約ヲ更新セシメントシタルニ蘭印側ハ右三、〇〇〇屯ヲ加算シ本年六月迄ニ既ニ二、三〇〇屯對日輸出スルコトトナルカ故之ヲ三、〇〇〇屯ヨリ差引タル殘七〇〇屯カ本年殘余期間ノ對日輸出スヘキ數量ナリト主張シ居ル

17 ボーキサイト　一、〇〇〇　一、〇〇〇

（註）本品ニ付テハ各年東京ニ於テ和蘭政府ヨリ二〇〇屯ノ對日輸出承諾ヲ取付居タルカ元來本邦商社日蘭商事會社ト「ボーキサイト」販賣會社トノ契約ニ於テ本年ヨリ毎年一、〇〇〇、〇〇〇屯買取ニ付長期契約アルヲ以テ今次會商ニ於テモ之ヲ基礎トシテ要求セルモノナリ

18 ニッケル鑛　一八〇、〇〇〇　一二〇、〇〇〇

（註）本品ニ付テハ各年東京交渉ニ於テ和蘭政府ヨリ一ケ年一二〇、〇〇〇屯ノ對日輸出ニ關シ承諾ヲ取付ケ居レリ而シテ元來本品ニ付テハ蘭印「ニッケル」販賣會社タル「ボニトロ」社ト本邦商

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

			社太洋鑛業會社、MMC社ト日蘭商事會社間ニ私的契約アリテ蘭印會社側ニ於テハ對日輸出ヲ滿足トナシ居ルモノナリ
19	滿俺鑛	二〇〇〇	（註）本品ニ付テハ最近ノ日、蘭代表會談ニ於テ蘭側ハ一ケ年八〇〇〇屯以上ノ對日輸出不可能ナル旨主張シ居タルモノナリ
20	工業鹽	一〇〇〇〇	無條件 （註）本品ニ付テハ各年東京交渉ニ於テ和蘭政府ノ保障ヲ取付且ツ八月本邦一商社ヲシテ三ケ年間ノ長期買付契約ヲ爲サシメタリ
21	ヒマシ	八〇〇〇	無條件 （註）客年東京ニ於ケル交渉ニ於テ和蘭政府ヨリ對日輸出ノ保障ヲ取付タルモノナリ

22	規那皮	八〇〇〇	無條件 （註）客年東京交渉ニ於テ和蘭政府ノ對日輸出ニ付保障ヲ取付タルモノナリ
23	キニーネ	八〇	（註）今次會商ニ於テ蘭側代表ハ規那皮ハ「トラスト」ノ關係上多量ノ輸出困難ナレトモ製品タル「キニーネ」ハ我希望通輸出スヘシト申出アリタルニ付之ヲ一ケ年八〇屯トシテ要求セルニ今回ノ回答ニ於テ日本ノ一ケ年需要量ヲ八〇屯ナリト指摘シ居レリ
24	鐵	油、八〇〇〇	（註）「八〇〇〇屯トセルコトハ客年向井忠晴ノ交渉ニ依リ契約シタル數量ニシテ日、蘭兩代表ノ最近ノ會談ニ於テ蘭側代表ハ此數量ノ對日

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

輸出可能ナリト申出テ且ツ長期契約ヲナスモノナラハ更ニ増産シテ對日供給量増加モ考慮シユヘシト稱シタルニ付我方トシテハ五ケ年間或ハ其以上ノ長期契約トスルモ可ナルヲ以テ結局一ケ年ニヘロQOOO屯迄買付クル用意アルコトヲ通告シ置タリ

然ルニ今回ノ問答ニ於テ鐵油ニ付テハ日本輸入業者ト石油會社トノ交渉ニ俟ツヘキ事項ニシテ和蘭政府ハ石油資源ノ現狀ヨリ見テ生産増加ヲ許サストノ意見ナリト申出來レリ

25	黄麻	一、三〇〇
26	蜜蠟	（一、二〇〇千圓）（無條件
27	豆類	（一、二〇〇千圓）（無條件
28	ココア	（八〇千圓）（無條件
29	貝殻	（一〇〇千圓）（無條件
30	蒟蒻芋	（二〇〇千圓）（無條件
31	屑鐵（ブリキ屑ヲ含ム）	六〇、〇〇〇（註）日本ノ國内消費ニ充當セラレ且ツ和蘭ノ同盟國向ニ必要トセサル限リ對日輸出ニ反對ナシ
32	モリブデン鐵、クローム鐵、タングステン鐵、雲母（高級品）ニ付テハ對日輸出上蘭印政府カ積極的努力ヲ爲スコトヲ確約セラレ度	之ニ對スル蘭側回答ニ於テ此等鐵物ノ採掘狀態ニ鑑ミ將來性ニ大ナル期待ヲ懸ケ難シト稱ス

一二二

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

33	ピッチ、コークス	一〇〇〇
	之ニ對シ鍛油ト同様日本輸入業者ハ石油會社ト交渉セラレ度ト回答シ來レリ	
34	糖蜜	六〇〇〇〇
	之ニ對シ日本政府ハ蘭印ヨリ正常數ノ三十倍ノ輸入ヲ計畫セラレ居ルカ之ニ付テハ確固タル意見ヲ開陳シ難シト回答越セリ	
35	サイザル	二〇〇〇〇
	之ニ對シ日本政府ハ正常數ノ二十五倍ノ輸入ヲ計畫スルカ之ニ付テハ何等意見ヲ申述ヘ難シト回答越セリ	

S 2.2.0.0-16

暗號　0707　1387　機密

昭和18　一五八九六　（暗）　バタヴィア　六月十日後發
本省　十日後着

松岡外務大臣　芳澤代表

會商第二二九號（館長符號扱）

往電第二二二號及第二二七號ニ關シ

十日午後五時ヨリ七時迄「モ」ト會談（石油「ホ」同席）關係品目中疑問トスル點ニ關シ詳細説明ヲ求メタル所關調査ハ回答文ソノモノカ純ナル印象ヨリモ若干「ハ」ナトリアルコト判明セリ委細追電ス　（了）

註（欄外）第二二七號ハ八日發蘭ノ芳澤代表蘭側回答電信

S 2.2.0.0-16

B-0156
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信寫　　外機密

昭和16　一五八九六　暗　バタヴイア　六月十日發
本省　六月十一日夜着

松岡外務大臣　芳澤代表

會商第二二九號（館長符號扱）

往電第二二二號及第二二七號ニ關シ
十日午後五時ヨリ七時迄「モーク」ト會談（石油「ボルネオ」問題）蘭側回答中疑問トスル點ニ關シ詳細說明ヲ求メタル所蘭側ノ態度ハ回答文ソノモノカ與フル印象ヨリモ若干ノユトリアルコト判明セリ委細追電ス

（了）

註（第二二七號トハ八日接到ノ芳澤代表請訓電信ニ該當スヘシ　信課）

S 2.2.0.0-16

燃料局
一六、六、一〇

蘭印交渉ニ對スル今後ノ方針（案）

芳澤代表ノ提出シタル我方ノ要求ニ對シ蘭印側ノ回答ハ從來ノ主張ヲ一歩モ讓ラス右回答カ最後的ノモノトスレハ今後如何ナル態度ヲ以テ之ニ臨ムカハ我國ノ最高方針ヲ以テ決セラルヘキモノナルカ石油ニ關シテハ他ノ物資ト同一ニ取扱ハルヘキ性質ノモノニ非ル事ハ我國ノ石油事情ニ照シ事明ノ理ニシテ從來ノ交渉モカカル方針ノ下ニ進メラレタル次第ニシテ今後モ從來ノ方針ヲ堅持シ他物資ノ交渉カ更ニ繼續セラルルト打切ラルルトニ拘ラス飽迄別個ニ從來ノ交渉ヲ持續貫徹スル事ニ努メントス

右主意ニ基キ具體的方針ヲ列擧セハ次ノ如シ

「一般交渉カ繼續セラルル場合

(一)民間代表及隨員ハ其儘駐在ス

(二)鑛區ノ問題ニ關シテハ蘭印政府ヲ對手ニ「ボルネオ」鑛區ノ調

外務省

（日本標準規格B5）
S 2.2.0.0-16

B-0156
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

査開發ノ急速促進ヲ計リ一方長期戰的ニ「ニューギニヤ」「セレベス」鑛區ノ調査着手ヲ認メシムル樣交涉ヲ進ムルト共ニ「タラカン」對岸及「メタン」地區ニ對スル要求トNIAMニ資本參加ノ要求トノ貫徹ニ努力ス

(三)買油交涉ハ英米商社ヨリ代表カ蘭印ニ出テ來ル事ヲ承諾セサル以上交涉ヲ進ムル事ハ困難ナル事情アルニ鑑ミ代表部ハ買油交涉ヲ打切ル事無ク、取敢ヘスノ間驅トシテハ買油契約ノ積取ノ圓滑ヲ計ルト共ニ、契約品種ノ訂正及契約條件ノ適正化ニ對スル交涉ニ當リ長期戰的ニ買油數量增加ノ交涉ヲ進ム

(四)買油數量ノ增加要求ニ關シテハ東京ニ於テ「ライ」社「ス」社ヲ對手ニ交涉ヲ開始ス但此場合現地ニ於ケル交涉ニ支障ヲ與フルカ如キコトナキ樣充分ノ考慮ヲ拂フ

二、一般交涉ヲ打切ル場合

(一)全權團カ交涉打切リノ上引上ヲ決行スル場合ニハ全權ヨリ石油

交涉ハ更ニ石油代表ヲシテ交涉ヲ繼續セシムル旨ヲ承認セシメ

石油代表及隨員ヲ其儘駐在セシム

(二)石油代表及隨員ハ前號ト同一ノ主旨ニ基キ交涉ヲ進メ、日蘭印關係最惡ノ狀態ニ置カルル場合ニ於テモ最後ノ一劃迄我方ノ主張ヲ推進スルコトニ努ム

一般交涉ヲ打切ル事ハ我方ノ要求ノ後退ヲ認ムル事トナルヲ以テ之カ石油ニ影響スル事甚大ナリ

從テカカル措置ニ出テサル事カ最モ望マシキ事ナルモ萬一一般交涉打切ノ場合ニ於テモ石油ハ之ヲ禍サレサル樣事前ニ萬全ノ措置ヲトル事肝要ナリト認ム

B-0156

日蘭經濟交渉經過概要

昭和十四年十一月（和蘭參戰以前）在「ヘーグ」帝國公使ヨリ和蘭政府ニ對シ交渉開始方提議ス

昨年五月和蘭參戰後ハ東京及「バタヴィア」ニ於テ折衝ス

昨年五月、六月及七月蘭側ハ十三品目ニ付我方ニ對シ確約ヲ與フ

昨年九月小林使節派遣、十一月石油問題ニ付一應妥結ス

昨年十二月芳澤使節派遣

本年一月十六日入國、企業、交通、通信問題及通商問題ニ關スル第一次我方要求ヲ提出ス

本年二月三日右ニ對シ蘭側代表ヨリ我方代表ニ覺書ヲ提出ス

爾來右覺書（二月十七日附）ニ關シ「ホーフストラーテン」通商局長トノ間ニ豫備的會談行ハル

入國、企業、交通、通信問題及本邦商品ノ蘭印向輸出問題ニ關シテハ五月十四日、蘭印産物資ノ本邦向輸出問題ニ關シテハ五月七日及二十日、石油利權ノ問題ニ關シテハ五月二十二日我方最後案ヲ提出ス

六月六日右ニ對シ蘭側ヨリ回答シ來ル

入國、企業、交通、通信問題ニ關スル蘭側回答要點

(一) 蘭印住民ヲ保護スルノ必要上多數日本人ノ入國ハ許可シ得ズ

(二) 在留日本人ノミヲ診療スベキ日本人醫師ノ入國、開業方ニ付テハ好意的ニ取計フベシ

(三) 經濟開發ハ大体蘭力ニテ之ヲ爲スコトヲ得、否寧ロ和蘭ノ資本及勞働ノ爲ニ之ヲ保留シ置クノ要アリ又國防上ノ理由ニ依リ外國人ニ許シ得サル場合多シ

(四) 石油鑛區ニ關スル利權又ハ營業ニ對スル許可ハ個々ノ場合ニ付テ審査シ可否ヲ決スベシ包括的言質ハ與フルコトヲ得ズ

（日本標準規格B5）S 2,2.0.0-16

（日本標準規格B5）S 2,2.0.0-16

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(イ)「ボルネオ」

(1)「サンクリラン」地方（二七九〇〇〇「ヘクタール」）ノ利權ヲ與フ

(2)「マンカリアヲト」半島ノ金鑛區（「三〇〇〇〇「ヘクタール」）ヘノ延長方ニ付テモ考慮ス

(ロ)「セレベス」

「バンガイ。ゾロック」地方鑛區（一二「四〇〇「ヘクタール」）ニ付テハ既存日本人企業ノ成績ヲ見タル上優先的ニ考慮ス

(ハ)「ニューギニア」

東北部鑛區中六〇〇〇〇「ヘクタール」ニ付(ロ)ニ同ジ

(五)其ノ他ノ項目ニ付テハ總テ拒否ス

「通商問題ニ關スル蘭側回答要點」

(一)蘭印産物資ノ日本向輸出問題

（日本標準規格B5）
S 2,2,0,0 -16

(イ)蘭側ノ戰爭上ノ緊急必要ニ付テハ和蘭政府ガ唯一ノ判定者タルノ權利ヲ保留ス

(ロ)現在ノ事態ニ變更アル場合又ハ直接ニモ間接ニモ和蘭及同盟國ニ有害ナリト認ムル場合ニハ各種物資ノ輸出ヲ制限又ハ差止ムベシ

(ハ)護謨一本年中ニ一萬五千瓲ナルモ九千九百瓲ハ既ニ我方ニ於テ輸入濟ナルニ依リ殘リ五千百瓲ヲ獲得シ得ルニ過ギズ

(ニ)錫ー三千瓲ナルモ既ニ二千三百瓲ハ輸入濟ニ付殘リ七百瓲ヲ輸入シ得ルニ過ギズ

(ホ)「ボーキサイト」ー毎月二萬瓲（一年間二十四萬瓲）

日、蘭印業者間ニ一九四〇年以後毎年四十萬瓲宛買取ル契約アルニ拘ラズ之ヲ無視シ右ノ如ク制限セントス其ノ結果住友

（日本標準規格B5）
S 2,2,0,0 -16

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

日蘭ノ二工場ハ閉鎖、日本「アルミ」、日本輕金屬ノ二工場ハ二割操短ノ已ムナキニ至ル

(ヘ)「キニーネ」ハ毎月五噸（十年額六十噸）無制限ニ供給スベシトノ從來ノ言質ヲ無視セルモノナリ

(ト)要之蘭印ノ不要ナル物資ハ之ヲ日本ニ賣ルモ蘭、英、米ノ必要トスルモノ及其ノ對日輸出ヲ好マザルモノノ輸出ハ極度ニ制限セントスルニアリ

(二)日本商品ノ蘭印向輸出問題

(イ)本問題ニ關シテハ石澤「ハルト」協定及小谷「ファン・モーク」協定アリ之ヲ修正スルノ必要ヲ認メズ

(ロ)然シ日本ノ輸出條件ガ合理的ナラバ蘭印ノ實需ヲ基礎トシテ向フ六ケ月間ノ日本品輸入割當量ヲ明示スベシ

外務省

一、芳澤使節ヲ引揚グルモ我方トシテ實質上左程大ナル不利益無キ理由

(一)入國、企業、交通、通信問題ニ付テハ全面的拒否ニ遭ヒタルガ假令蘭側ガ應諾シタリトスルモ現狀ニ於テハ我方トシテ實際上大ナル進出ハ爲シ得ズ

(二)我方ハ日本製綿布、雜貨ノ蘭印ヘノ輸入ニ付夫々蘭印ノ全輸入量ノ約八割ニ相當スル割當ヲ要求セリ然レドモ日本ノ資金二千五百萬盾ガ蘭印ニ事實上居睡リシ居ル狀態ナレバ日本品ノ蘭印向輸出ハ大ナル意味無シ

(三)依テ問題ノ核心ハ物資獲得ノ點ニ在ル處此ノ點ニ關シ蘭側ハ協定ヲ極メテ短期限ナラシメントセルノミナラズ對日輸出量ヲ蘭側ノ一存ニテ自由ニ變更セントスルモノナレバ協定トスルノ意義無シ

(四)假令交渉ヲ打切リ協定ヲ締結セザルモ蘭側ノ不要トスルモノ又ハ

外務省

B-0156
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

關側ガ現ニ申出デ居ル程度ノ數量ノ物資ハ普通ノ商取引ニ依リ
依然我方ニ之ヲ賣ルベシ

註「本邦貿易額中對關印貿易ノ占ムル割合（昭和十五年度）
輸出　四・七四「パーセント」（一億七千三百萬圓）
輸入　三・六三「パーセント」（一億二千五百萬圓）
註二　關印貿易額中對日貿易ノ占ムル割合（昭和十五年度）
輸出　二二「パーセント」
輸入　五「パーセント」

沿岸航路ハ經濟上ノ理由ニ依リ重視シKPM及土人海運業保護
ノ方針、虎丸ニ付テハ修理中ノ代船ハ認ムルモ增船ハ許可セス又
シ丸ノ「マノクワリ」「モミ」間就航許可ハ檢討中

(1) 新規事業ニ伴フ沿岸航海、沿岸航海ヲ必要トスル企業計畫ハ
最初其ノ旨申出ラレ度原則的ニ許可ハ不可能

(2) 不開港地ノ寄港手續簡易化及開港地ノ增加
「ボーキサイト」鹽木材ノ例ニ依リ不開港ヘノ寄港ハ迅速便
宜供與ヲナシツツアリ開港地ノ增加ハ輸出入額增大セバ考慮
スヘシ

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外機密

電信寫

昭和16　一五八一三　暗　スラバヤ　六月十日前發　通

松岡外務大臣　本省　十日後着

桑折館事

第二三二號

當地三井ノ得タル確報ニ依レハ經濟省ニ於テハ會商ノ成否如何ニ拘ラス「カポツクシーズ」ノ對日輸出許可量ヲ六月以降月五百噸ニ決定セル趣ナリ而シテ當地邦人組合ノ內地トノ成約現ニ三千五百噸アリ右經濟省ノ措置ニ依リ本年一杯ハ新規商談不可能トナル次第ナリ御參考迄

「バタヴイア」へ轉電セリ

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大臣
次官
東亜局長
南洋局長
亜米利加局長
條約局長
人事課長
會計課長
南洋局第一課長
南洋局第二課長
條約局第一課長
通商局第一課長
通商局第二課長
通商局第三課長
通商局第四課長
通商局第五課長
懸案

電信課長

（分類　　　　）

主管　通商局長　勅任事務官
主任　通商局第六課長　代

發電係

昭和十六年六月十日起草

電送第21610號
昭和16年6月10日後7時　分發

暗 略

合（？）通　第一三五號

宛　在バタビヤ　芳澤代表

發　松岡大臣

件名　経邦局関係者ノ経費ニ関スル件

名件錄記

電信案

経邦局長官ヨリ當中ヘ

前報資金一四、一〇〇円電送ス内譯左ノ通

一、廳費、消耗品七五〇円（以下円略ス）通信費五、〇〇〇計五、七五〇

二、雑給及雑費、事務所借入費一、五〇〇事務員雇入費六〇〇傭入雇人費五〇〇其他雑費七五〇~~（抹消）~~計三、三五〇

接客費五、〇〇〇

但シ右資金ハ一ケ月分ナリ

尚旅費ニ付テハ衛藤到着ノ上詳報ス

外務省

（日本標準規格B5）

10　17

B-0156

0123

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大臣
次官
東亜局長
南洋局長
亜米利加局長
條約局長
人事課長
會計課長
南洋局第一課長
南洋局第二課長
條約局第一課長
通商局第一課長
通商局第二課長
通商局第三課長
通商局第四課長
通商局第五課長

懸案

(分類)

主管 通商局長 勅任事務官

主 通商局第六課長

昭和十六年六月十日起草

電信課長

發電係

電送第 21715 號

昭和16年6月10日後8時00分發

宛 在バタビヤ 芳澤代表

發 松岡大臣

件名 日蘭商事ノ「ボーキサイト」上 買付契約ニ関スル件

記録件名 (依頼電)

暗 略

合商第一二八號 ([illegible])

日蘭ヨリ関川(セキカハ)ヘ

右記事情ヲ具シテ代表ヘ報告ノ上理由ナキ

契約ノ変更又ハ輸出制限絶対ニ排スル様尽力アリ

電信案

外務省

10 67

B-0156

0124

電信案

リ度

一、契約ハ戦前ノ協申ニシテ然モ同ビリトンノ要請ニ依リ契約量ヲ専ラ国内需要ニ充ツル為工場ヲ増設シタル次第ニテ其製品ヲ独逸向ケトスルコトナシ

二、本年三十六万屯ハ工場操業ヲ円滑ナラシムル為絶対必要ニシテ上半期積取少キハ

外務省

(日本標準規格B5)

電信案

蘭船カ半々積取リノ義務ヲ履行セサル結果ナリ下半期ニ於テモ若シ蘭印側カ配船セサルニ於テハ邦船ニ依リ積取ル準備ヲ為シ居レリ

三、日軽、日本「アルミ」ノ両社ハ優先権利ヲ有シ然モ此両社ノ鉱契約ハ本年内未積取リ残二十四万屯ニ達スル故ニ若シ第三国ニ供給スル為日本向ケヲ制限スルカ如キコトハ絶対ニ承認

外務省

(日本標準規格B5)

B-0156
0125
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信案

出来サルニ付右両社ノ優先権ヲ主張セシメタシ
四、「ファーモーレン」ハ「ビリトン」重役トシテ昨年十月ノ
契約締結ニ関與シ本年三十六万明年四十万
モ積取ニ付一切ノ事情ヲ承知セリ

外務省

（日本標準規格B5）

B-0156

0126

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外機密

電信寫

0405 1388

昭和13　一五九三八　（略）　バタヴィア　六月十一日前發
本省　十一日後着

松岡外務大臣　芳澤代表

會商第二三〇號ノ一（大至急、館長符號扱）

往電第二二九號ニ關シ

會談内容左ノ通リ

一、入國關係

(イ)理論的ニハ現行法規ニ依レハ千六百名迄許可ノ可能性アルコト明瞭ナリト認ムル處囘側ニ於テモ右ニハ異存ナカルヘシ又囘側トシテハ實際上許可數ヲ過去ノ經驗（最高二百五十名）ニ限定スル意嚮ナキモノト思考スル所如何ト質セル處「モ

0405 1388

2

ハ御尤モナリ但シ移民總數カ限度（本年ハ一萬）ニ達シ居ラサル限リ日本人ニ對シテハ理論上ハ full quota（註、即チ千六百名）迄許可シ得ル譯ニシテ又許可數ヲ二百五十名ニ限定セントスル次第ニハアラス唯一、一ノ場合ニ付法規ノ定ムル手續ト調査ヲ完了セル上囘側ノ判斷ニ依リ之ヲ許可セントスル次第ナリト答ヘタリ

(ロ)醫師及齒科醫ノ入國ニ關シ從來同意シ居タルニ拘ラス今次囘答ニ於テ齒科醫ヲ除外セル理由如何ト質セル處特ニ除外セル次第ニハアラス現在蘭印ニハ相當數ノ日本人齒科醫アル處彼等ハ向ニ論スレハ齒科醫法違反ナレハ追放處分等ノ問題ヲ惹起スヘシ依テ囘側トシテハ今次會商ノ成果トシテ總括的ニ協定成

B-0156
0127
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

立スル場合ニハ現在ノ資料中一定額ヲ限リ正式ニ有[illegible]トシテ認可セントスル次第ナリト答ヘリ

二、企業及營業關係

(イ)水產業ニ付テハ將來適當ノ機會ニ更ニ[illegible]スルコト可能ト認メラルル處如何ト質セルニ特別ノ場合ニ付テハ[illegible]考慮ノ用意アルモ根本方針トシテ漁業ハ和蘭臣民ノ爲留保シタキ意向ナリト答ヘタリ

(ロ)小規模營業ハ大部分和蘭臣民ノ爲留保ノ要アリト言ハルル處右ハ反面ニ相當部分ハ日本人ニモ許可スル[illegible]アルコトヲ意味スルモノト思考スル處如何ト質セル所小規模ノshop類ハ土人ヲ教育向上セシメテ之ヲ經營セシムヘク今努力ヲ傾注シ居ル次第ナレハ外國人ニハ全然許可セスト言フ譯ニハアラサルモ其ノ餘地ハ極メテ僅少ナリト御了承相成度ト答ヘタリ

三、交通、通信關係

(イ)日蘭印間直接航空連絡ニ關シ蘭側ハ將來適當ノ機會ニ協議ノ用意アリト認ムル所如何ト質セル處戰後一應考慮シ見ル用意ハアルモ本件ハ國防問題トモ關聯スル難問題ニ付之ヲ約束ト取ラレサル樣致度ト答ヘタリ

(ロ)海底電線問題ハ「マラパル」無電聯絡ノミニテハ不充分ナルコト判明スル場合ニハ更ニ協議シ得ヘク且「ヤップ」－「メナド」間海底電線ハ日本側ニ於テ費用ヲ負擔シ蘭側ニ迷惑ヲ掛ケサル場合ハ其ノ利用ニ反對セラルル次第ニアラスト思考

B-0156
0128
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外機密

電信寫

0404 0405

昭和16 一五九三七 （暗） バタヴィア 本省 六月十一日前発 十一日後着

松岡外務大臣 芳澤代表

會商第二三〇號ノ二（大至急、館長符號扱）

商務官關係

(イ)護謨ニ付テハ前回電申及セル蘭印政府ノ決定ニハアラスト
スルモ圖側代表部トシテ試買額ト内示セルモノヲ壹萬五千ト
セラレタルハ圖側心外アリト語リタル處本年三月ノミニ付テ
見ルモ壹萬噸ノ護謨カ西貢ヨリ神戸向田村宛積出サラレ居リ
其ノ後佛印及「タイ」ヨリ日本向護謨輸出ハ益々増大シ居ル
ト共ニ本年ハ飛行機用トシテ用ヒラルルモノ多ク且重要ナル
軍需資材アレハ數量ヲ限定シ居ル條件ヲ確實ニスルハ已ムヲ
得スト答ヘタリ

(ロ)護謨以外ニモ圖側試驗的内示量ニ比シ「ボーキサイト」ハ壹萬
噸「コプラ」ハ貳百噸「タンニン」材料ハ貳千五百噸少キ處
右ハ全面的ニ對日物資供給量ヲ縮減セントスル下心ノ表現ト
モ見ラレ甚タ不愉快ナリト語リタル處決シテ右様次第ニアラ
ス一年分ヲ月割トセル爲端數ヲ切捨テタル迄ナリ圖側トシテ
ハ「ボーキサイト」ヲ年二五萬噸トシ「コプラ」ヲ試驗的ニ
スルコトニ異議ナシ唯「タンニン」材料ハ其ノ後調査ノ上過
去ノ最高數字ヲ採レル次第ニ付右ハ變更シ得ストノ答ヘタリ

(ハ)錫鑛「サイザル」及「ピッチコークス」ハ有希錫部ニ[illegible]テン

S 2.2.0.0-16 2102 S 2.2.0.0-16 2101

B-0156

0129

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外機密

電信寫

スル所如何ト質セル處尚御ハ寫眞電送其ノ他凡ユル問題ハ無
電ノ改善ニ依リテ實現シタク無電收入激少ノ候モアリ海底電
線ニハ興味ナシト答ヘタリ（續ク）

S 2.2.0.0 -16 2100

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

トスル次第ナリヤト質セル處數字ヲ検討ノ上近ク回答シ得ヘシト答ヘタリ

(三) 我方ハ從來四月乃至三月ノ會計年度ヲ基礎トシテ論議シ蘭側モ一箇年単位ノ話ニ大體異議ナカリシニ突如今回的ニ一九四一年ノ暦年ヲ基礎トセルハ不可解ナリト質セル處蘭側ハ會計年度ト暦年トヲ何レニスルモノナル處目下ノ戰爭ノ結果如何ナル變化ヲ生スルヤ豫測シ難キニ付向フ一箇年ノ約束ヲ爲スハ困難ニシテ六箇月ナラハ約束ノ實行モ可能ト認メタルニ付一九四一年トセル次第ナリ、半年後時勢改善シ居ラハ或ハ六箇月以上ノ新規約束ヲ爲スコトモ可能ナルヘシト答ヘタリ

(四) 最後ニ從來蘭側トシテハ錫礦及錫ニ付テハ對獨供給防止條件ヲ重視セルモ其ノ他ノ物資ニ付テハ締約數量ハ之ヲ必ス供給スヘク唯萬一ノ爲右條件ヲ留保ストノ態度ナリシ處今次回答カ一律ニ右條件ヲ強調シ居ルハ如何ト質セル處御説ノ通リ諾設數字以外ハ萬一ノ爲減少シ得ル自由ヲ留保セルモノニシテ實際的ニハ差當リ右條件適用ノ必要[illegible]リ居ルモノトハ認メ居ラス從テ對日供給ハ順調ニ行ハルヘシト答ヘタリ

(五) 其ノ他

尚附屬書一、ノ二七八、〇〇〇ハ二七九、〇〇〇ノ間違ナラスヤト指摘セル處鎭田局長ニ照會ノ上回答スヘシ千「ヘクタ－」位ノ相違ハ問題トスル程ノコトナカルヘシト答ヘタリ（了）

B-0156
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信寫

祕

昭和16　一六〇〇〇　略　盤谷　六月十一日後發
本省　十一日後着　追而　南

松岡外務大臣　二見公使

第三二九號

新聞報道内掲傳書使持參ノ「バタヴィア」發ノ閣下宛公信（蘭側回答文「テキスト」）十二日當地發飛行機ニテ空送ス

「バタヴィア」ニ轉電セリ

S 2.2.0.0-16

電信寫

外機密

0407

昭和16　一六一六〇　暗　巴城　六月十一日前發
本省　六月十二日夜着

松岡外務大臣　芳澤大使

往電第三二號ノ一

十一日[illegible]公使ニ會見

自分ハ「バタヴィア」滞在ニ[illegible]ハ何等[illegible]ニ[illegible]シ居ラサルモ自分ノ所見ニテハ[illegible]ニ[illegible]蘭ニ[illegible]ヘス[illegible]年以上[illegible]リ日本トノ貿易平和[illegible]ヲ維持シ來リタル和蘭カ[illegible]ノコトヲ[illegible]爭ヲ醸スルハ通商上常識ニ合ハサルカ如ク思フト述ヘタル反省ヲ促シ置キタリ尚公使ハ[illegible]ヲ[illegible]ヘ[illegible]ユル努力ハ[illegible]ストノコトナリシカ

一（二）

S 2.2.0.0-16

B-0156

0132

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外機密

電信写

1

0505

1335

[illegible] 一六一七八 暗 台北 六月十一日後発
本省 六月十二日前着

外務大臣 [illegible] 大臣

第[illegible]三号ノ二

ニノ際ノ機関ニ於テハ日本トノ門戸ヲ閉鎖シ列国ノ脱退ヨリ寄

シ居ルモノナルコトハ金融側ノ方面ヨリ耳ニスル所ニ依レハ益[illegible]

側ハ物質力変動ノ関係ヨリ漸ク実際ニ入セサルヲ非常ニ遺憾トシ居レリ）尚

何分日本ノ態度及新国家カ国際的ニ不遇ナルコトヲ考ヘ暗タ

ルカ本件ハ今日ノ新国ノ[illegible]ヲ以テ[illegible]ニスル時ニハアシス[illegible]ニ委員

ノ総テニ見スルコト必要ナルヘキコトヲ力説シ[illegible]

ハバタグイアンヘ申入レタリ

S 2.2.0.0-16

2107

B-0156

0133

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

特扱

電信寫

昭和16　一六二四七　暗　バタヴイア　六月十三日前發　通、南
本　省　十三日後着

松岡外務大臣

會商第二三五號（大至急）

本邦ヨリノ新聞及「ラジオ」放送ニ依レハ蘭側回答ニ關スル我方
回訓ハ十二日中ニ發電セラレタル趣ナル處當方ニハ十三日午前九
時ニ至ルモ接到シ居ラス如何ナル次第ナルヤ大至急御回電請フ

（了）

芳澤代表

外務省

往電寫

外機密

極秘

總番號　一二〇二九
一二〇三〇

符號（暗號）　昭和十六年六月十二日後八時　分發　着　一

在米
「ソ」　野村大使
　　繩川大使

日蘇間國交調整過ニ關スル件

別電合第一二四一號

一、邦人從業員入國許可申請ニ對シ法令ノ範圍内ニ於テ出來得ル限リ好意的考慮ヲ加ヘ少ク共年千六百名迄ハ許可スヘシ

二、不便ナル特定外國地（但シ「マドラ」以外ノ地）ニ於テ邦人竝ニ邦人企業雇傭ノ日本人以外ノモノヲ診療スル爲特定數ノ邦人ノ開業ヲ許可スヘシ

電信課作成

松岡外務大臣

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、華商又ハ合辦ノ企業、醫藥ノ新設擴張ニ付國防上ノ理由又ハ住民ノ爲保留スル必要無キ限リ許可スヘシ

四、若干地域ニ於ケル石油利權ヲ要求ス

五、日佛印直通航空聯絡ニ付將來適當ノ機會ニ開設スルコトノ約束及雞谷、西貢ニ於ケル聯絡改善方ヲ要求ス

六、將來適當ノ機會ニ日本ノ管理下ニ日佛印間敷新式海底電線ヲ敷設スルコトヲ許可スヘキ旨約束スヘシ又現在ノ無電聯絡ノ改善方ニ付協力スヘシ

七、邦人企業ノ生產品輸出上必要アル場合特別ノ支障無キ限リ沿岸航海自營ヲ許可スヘシ又現ニ沿岸航海ヲ營ミ居ル邦人カ營敞及

噸數ノ增加ヲ必要トスル場合特別ノ支障無キ限リ許可スヘシ

八、日佛印貿易ノ增大又ハ邦人企業發展ノ結果必要アル場合特產物積込ノ爲ノ不開港地ヘノ寄港又ハ其開放ニ付特別ノ支障無キ限リ要請ヲ容ルヘシ

九、本邦品ノ輸入割當ニ付テハ戚中國印民衆ノ必需品タル主要綿布及雜貨ニ付佛印金輸入量ノ約八割ニ相當スル割當ヲ要求セリ

一〇、佛印產物資ノ對日輸出ニ付テハ我方ノ必要トスル各種重要物資ノ被低要求量（總額平額二萬噸錫三千噸「ボーキサイト」四十萬噸「コプラ」二萬五千噸等等）ヲ明示シ確約方ヲ要求シ又代償トシテ我方ニ於テ特ニ買付ノ用意アルモノノ敞載ヲ提示セリ

B-0156

往電寫

極秘

外機密

電信課作成

總番號 二三〇三五
號 二三〇二六

符號（略）

昭和十六年六月十二日後七時　分發

主管 亜一

本省發 松岡外務大臣

在米 野村大使

轉電 [illegible]川大使

日蘭印經濟交渉ニ関スル件

合第一二二〇號（館長符號扱）

往電大臣宛第八八號ニ関シ

其後折衝ヲ重ネタルモ蘭印側ヲシテ我方原案ヲ其儘受諾セシムルコト不可能ナルコト明カトナレルヲ以テ客月我方ハ難キヲ忍ヒテ全面的ニ讓歩シ蘭印側ノ主張ヲモ取入レタル我提案（要領別電合第一二四一號ノ通リ）ヲ提示セルニ對シ本月六日蘭印側ハ之スラ實質上殆ト全面的ニ拒否スルニ至レリ

即チ入國、企業、交通、通信問題ニ付テハ(一)特定地方ノ邦人ノ為ニノミ認ム(二)我方ノ要求セル石油鑛區中一部分ニ付テハ利權ヲ與フヘシ他ノ部分ニ付テハ其成績ヲ見タル上好意的考慮スヘシト回答セル外ハ殆ト凡テ現状ヨリ一歩モ出テス

通商問題ニ付テハ(一)輸入ニ付本邦品ノ輸出價格合理的ナル限リ蘭印ノ需要ニ應キ向フ六ケ月間ノ輸入割當額ヲ明示スヘシト述ヘ（但我方要求ヲ其儘容ルルニ非スシテ單ニ我方輸出見込ニ便スル爲先方ノ一方的決定數量ヲ明示スルモノナリ）(二)輸出ニ付蘭印各種物資ニ對スル我方最低的要求量ヲ削減セルモノアリ殊ニ錫鑛ノ如キハ客年六月年二萬噸ノ供給ヲ確約セルニ拘ラス一萬五千

B-0156
0136
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

噸ニ制裁シ又「ボーキサイト」ニ付テハ蘭印當業者間ニ年四十萬噸迄ノ供給契約アルヲ無視シ月二萬噸ニ切下ケタリ是等制裁ハ對獨再輸出ヲ阻止セントカ爲ナリト云フ加之各種物資ノ對日供給カ直接間接和蘭及其同盟國ノ利益ヲ害シ又ハ其ノ敵ヲ利スルト認ムル場合ニハ更ニ制限シ又ハ禁止ムルコトアルヘク且其ノ唯一ノ判定者ハ和蘭政府ナリトノ漠然且不當ナル條件ヲ新ニ附シテ餘貨ナル當貨ヲ與フルコトヲ通告シ又割當期間モ物ニ依リ長短アリ一ケ月乃至六ケ月ナルモ同國政府ノ一方的認定ニ依リ隨時臨機ニ斷絶スルコトアルヘシト主張シ居レリ(殊ニ護謨、錫ニ付テハ最近蘭印ヨリ護謨一萬噸カ日本船ニ依リテ運ハレ日本經由獨逸ニ送ラ

レタルノ非難アリト指摘シ居リ今後益々其ノ對獨封鎖ト歩調ヲ合セ蘭印、「タイ」ヨリノ對日供給量ト睨合セ更ニ制限一萬五千噸ニ付テモ其ノ一部又ハ全部ヲ制裁スルコトアルヘシトノ態度ヲ示シ錫ニ付テモ同樣ナリ尙本年中ニ蘭印護謨一萬五千噸、錫三千噸全部カ本邦向輸出セラルルモノトスルモ既ニ護謨ハ九千九百噸、錫ハ二千三百噸輸入濟ナルニ付今後ハ殘リノ數量即チ護謨五千百噸、錫七百噸ヲ輸入シ得ルニ過キサル次第ナリ)

本電及別電轉電先　米、蘭

別電ト共ニ蘭ヨリ獨、伊ヘ轉電アリタシ

別電ト共ニ米ヨリ英ニ轉電シ盤谷ヘ適宜轉報アリタシ

B-0156
0137
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

秘　極　（電　特）

出電譯文

（宛先）吧城　三井物産株式會社

（日附）昭和16年6月12日

特 36

シタレサル交渉量増可許積月七誤護生

返電ニ共ト込見ノ降以月八果結

注意事項

（一）外務省經由來出電ノ事實即チ特電依頼ノ事實ハ社外ニ對シ絶對極秘トスルコト

（二）特電ノ Confirmation ハ絶對ニ書カヌコト

（三）如何ナル書狀ニモ「特電」「外務省經由來出電」又ハ之ニ類似スル字句ハ記載セザルコト

（分類　）

電信案

外務省

暗 ～~~平略~~

電送第 22044 號

昭和6年6月12日 前後6時30分發

件名 護謨積出許可ノ件

宛 在バタビア 石沢領事

發 杉原大臣

記錄件名

主任 通商局長

通商局第六課長

電信課長

發電係

昭和16年6月13日起草

（三井物産依頼報）

紙1

ライフ不要

13 35

（日本標準規格B5）

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ対シ六、七月分輸出割当量売込ニ付
直接「オファー」アリ之ニ対シ当業輸入
商側ヨリ「カウンター、オファー」シタルモノ
アリ
右ハ実際問題トシテ総テ外商ノ所有スル
輸出割当ヲ輸入代行社ノ当地方支店等
ニ集中セシムルコト不可能ナル以上已ムヲ

電信案

外務省

（日本標準規格B5）

(分類)

暗 電送第 22113 號
昭和16年6月3日 後7時50分發

主管 南洋局長
主任 第一課長

件名 回訓発電日取ニ関スル件
宛 在バタヴィア 芳沢代表
發 松岡大臣
第 四一 號

昭和十六年六月三日起草

貴電蘭商第二三五号ニ関シ
回訓ハ多分明晩発電ノ運ビトナルヘシ

電信案

外務省

（日本標準規格B5）

S 2.2.0.0-16 2116

13 89

B-0156

0139

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大臣
次官
東亜局長
南洋局長
亜米利加局長
條約局長
人事課長
會計課長
南洋局第一課長
南洋局第二課長
條約局第一課長
通商局第一課長
通商局第二課長
通商局第三課長
通商局第四課長
通商局第五課長
懸案

(分類　　　　)

22310

主管 通商局勅任事務官
主任 通商局第六課長

昭和十六年六月十四日起草

暗

電送第 22312 號

昭和16.6.14 日午後8時50分發

第三一七號

宛 在バタビヤ 石澤總領事

發 松岡大臣

件名 蘭印産護謨輸入方ニ関スル件

記録件名

電信課長

發電係

電信案

貴電第四八七號ニ関シ
一、實情ヲ調査セル處貴地方外商ヲ從来
取引先トセル内地輸入商（全部輸入代行社

外務省

14 93

B-0156

0140
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信案

得サシムル次第ニシテ商工省及輸入組合ニ於テモ直接通信差止メ規約ヲ設ケシメ誤謬ヲ改メシムルコトトナリタリ
仍テ輸入代行社（六社）ハ甚便トシ左ノ通貨地方内外輸出商社ト組合セ相互間ノ直接通信ヲ為サシムルコトトセリ

輸出者	輸入代行社
三井	三井
三菱、「セレベス興業（メナド）」	三菱
「インター」、「ヴエレンスタイン」、「アイシツ」	岩井
加商（カヨウ）南東（ナントウ）、「ミランドル」、「アツクレン」	加商
精栄（セイエイ）、大岡、「チュンキン年」	宮崎
野村、工藤	大和（ヤマト）

然ルニ右ハ六、七月分ノ輸出割当ニ付「オファー」

外務省

B-0156
0141
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

（二）

シ来リタル分ニ付テノミ不取敢組合セタルモノナルカ六月分七十屯七月分二十四屯ニ付テハ未タ「オファー」ニ接セス従テ此等ノ輸出割当カ当地方内外商社中何社ノ許容ニ帰スルヤ不明ナルニ付邦商ヲシテ当該商社右取調ヘ「ノメラ」至急回電アリ度

二、右様次第ニテ輸入代行社ノ輸入比率ヲ決定スルモ当地方内外輸出商社ノ輸出比率トノ喰違起ルト共ニ従来ノ取引系統ヲ変更セシムルコト至難ニシテ却テ我方輸入円滑ヲ欠ク虞アルヲ以テ当分代行社ノ輸入比率ヲ決定セサルコトトセルニ付御承知相成度

「スラバヤ」、「メダン」、「メナド」ヘ転報アリ度

電信案　外務省

（日本標準規格B5）

六月十五日蘭印國民參議會ニ於ル總督ノ參議會開會
演說中日蘭會商ニ關スル部分（綠書發在京和蘭公使
廻電報ニ依ル）

過去九ケ月ニ亘リ「バタヴィア」ニ於テ日蘭兩代表部間ニ行ハレ來レル經濟交涉ハ一般ヨリ多大ノ關心ヲ招キタル處右會商ニ於テモ蘭領ハ我對外經濟關係ノ基調タル一般原則ニ則レルモノナリ

當領人民ノ繁榮增進ノ爲ニハ人民ノ爲ニ自國內ニ於テ其適スル活動ヲナスノ余地ヲ保存サルルコトヲ要ス蘭領印度ハ母國ノ協力ヲ以テ大部分自ラ其富源ヲ更ニ向上セシメ且所要ノ力ヲ出シ得ル程度迄發展スルヲ遂ケ居レリ

外國ノ資本及勞働力ヲ余リニ大ヤカニ許容スルコトニ依リ人民ノ向上ノ爲有意義ナル要素ノ發展ヲ阻害スルコトハ正當ナラス、別ノ原則ハ從來ノ政策通リ當領ニ於テハ友好國間ニハ差別ヲ設ケサルコトニシテ從テ一國ノ臣民ニ對シ他國民ニ許與セルモノヲ拒絕セサルト共

ニ何等特惠的地位ヲ創設スルコトヲ得ス尙當領ニ於テ業務ニ從事スル外國ノ人及企業ハ其仕事ノ上ニ於テ國法カ內國臣民ニ與フルト同樣ノ保護竝便宜ヲ供與シ居レリ

外國貿易ヲ出來得ル限リ增進セントスル我等ノ希望ハ友好國全部ニ及ブモノナル處此場合自己ノ利益及屬國ニ對スル義務トシテ我輸出ニ依リ直接間接ニ敵ニ物資供給ノ結果ヲ齎ラスカ如キコトヲ絕對ニ防止セサルヘカラサルヲ基本的觀念トナス

右方針ノ下ニ在リテモ尙外國ノ利益ニ收リ尠カラサル余地アルヘク右ハ現ニ外國ノ利益カ我貿易及海運ニ於テ占メ居ル地位ニ依ルモ例證セラルル所ニシテ外國系ノ多數且多種ノ事業カ當領ニ設ケラレアリ多數外國人カ經濟方面ニ於ケル勤勞者トシテ吾人ノ間ニ於テ活動ヲ許サレ居レリ而シテ日本モ其間相當ノ地位ヲ占ム

前記方針カ外國人ノ活動特ニ特定ノ原料ノ輸出ヲモ制限セントスル場合其間ノ理由ハ極メテ明白且合理的ニシテ自國ノ爲將又戰爭遂行

B-0156

上正當ナル措置ニテモアルヲ以テ所定ノ方針ノ拡張ハ不徹底ナル實行ハ之ヲ考慮スルヲ得サリシモノナリ斯ル情勢ノ下ニ於テ且又日本ノ利益カ右原則ノ下ニ於テ永續性ト好意的收攬ヲ保障セラレアルノ實情ニ鑑ミ當初和蘭側ニ於テハ大規模ノ會商ニ關スル日本側ノ希望ハ直ニ理解スルヲ得ス偶々有益ナルコトアルヘキ意見ノ交換機關ニ委セテ差支ヘナカルヘシトノ意見ナリシモ日本側ノ重ナル希望ニ應シタル次第ナリ

然シ乍ラ日本代表部ノ到着後間モ無ク日本政府ハ三國條約加入ヲ宣シ則下ノ戰爭ニ於テ其勝利ハ王國ノ滅亡ヲ意味スヘキ國ト同盟ヲ結ヒタリ更ニ又其後數ケ月シテ日本ノ責任アル人カ遙ヘタル昔明ハ和蘭政府ヲシテ日本政府ニ對シ和蘭政府ハ蘭印ヲ如何ナル國ノ指導下ニ於ルヲ問ハス大東亞新秩序内ニ入レントスル觀念ヲ排撃スルモノナルコトヲ申入ルルコトヲ余儀ナクセシメタリ斯ル重大ナル障碍ノ發生ニモ拘ラス和蘭側カ所定ノ限界内ニ於テ双方ニ取リ滿足的ニ妥結

ニ到達スル樣協力ヲ繼續セルハ我方ニ於テ善隣關係增進ノ用意アルコトヲ如實ニ示スモノナリ

他面前記限界逾越ノ拒絶ハ（以下電文「タズレ」ノ爲不明）ノ證左ナリ

和蘭政府ハ充分ナル意見交換ノ後話合ノ點ニ關スル態度ヲ決定シ之ヲ覺書ニ收メ本月六日日本代表部ニ手交セリ右覺書ニ對スル日本側ヨリノ意見ハ未タ承知シ居ラス

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

歐亞局第二課長
亞細亞局第三課長
通商局第六課長

写ニピー 三通
（内一通ハ 通合ハ）

（分類　　　　）

22528

主管 南洋局長
主任 第一課長
電信課長
發電係

暗 / 平略

電送第22529號
昭和16年6月18日午後2時50分發

宛：在米 野村大使 / 在蘇 建川大使

件名：日蘭印會商打切及芳沢使節ノ引揚帰京ニ関スル件

記録件名：

發：松岡大臣

昭和十六年六月十三日起草

18 03

合第一二六四號

往電合第一二四〇号ニ関シ
蘭側回答ノ内容ハ甚ダ不満足ニシテ我方ニ於テ
應諾スベキ限リニ非ザルノミナラズ
假令會商ヲ

電信案
外務省

（日本標準規格B5）
S 2.2.0.0-16
2121

B-0156

0145

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信案

打切ルモ我方ニ於テ殊更蘭側ヲ挑発スルガ如キコトナキ限リ、我方ニ於ケル実質上右程大ナル反動ナク、殊ニ蘭印産物資ノ獲得自由ナラザル現状ニ於テハ本邦品ノ輸出モ事実大ナル意味ナク、又物資獲得ニ付テモ蘭側ノ不要トスルモノ又ハ蘭側ガ現ニ申出デ居ル程度ノ数量ハ假令協定成立セズトモ普通ノ商取引ニ依リテ買付ケ得ベシト思考セラルルニ依リ、今次会商ヲ打

外務省

(日本標準規格B5)
S 2.2.0.0-16　2122

S 2.2.0.0-16　2123

電信案

ルノ腹ヲ定メ、唯外交上ノ手段ヲ尽ス為総督ニ対シ猶当方促サシメタルモ総督ハ再考ノ余地ナキ旨回答セルニ依リ交渉ヲ打切ルコトニ決シ、更ニ芳沢代表ヲシテ

芳沢代表及代表部全員引揚ゲルコトトナレリ。

本電宛先　冒頭往電通リ。

冒頭往電通リ転電及暗送アリタシ。

外務省

(日本標準規格B5)

十三日クレーギー大使次官来訪 [illegible] 英国ガ [illegible] 独乙ガ [illegible] 場合 [illegible] 蘭印ニ対シ [illegible] 全ニ米モ [illegible] 戦争ニ捲キ込マルヽコト [illegible] ニアルコトヲ説明セリ。彼ハ偶々蘭印問題ニ付 [illegible] 代表 [illegible] 公使 [illegible] 日本 [illegible]

同地ニ於テ日本ガ兵ヲ動カセバ英国モ捲キ込マルヽトコロ蘭印ノ [illegible] ニ於ケル日本ノ [illegible]

The British nation can be counted upon to carry through to victory any struggle that it once enters upon no matter how long such a struggle may last or however great the sacrifices that may be necessary or whatever the means that have to be employed; and all this even though the actual military equipment at hand may be utterly inadequate when compared to that of other nations.

From "Mein Kampf"

by Adolph Hitler.

chapter 12.

S 2.2.0.0-16 2124

B-0156

0147

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外機密

電信課長

大臣
次官

東亜
欧亜
米洲
通商
条約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
会計
秘書官

寫送先

昭和16　一六三九二　（暗）　バタヴイア　六月十四日前發　南
松岡外務大臣　本　省　十四日後着　通
芳澤代表

會商　第二三六號　大至急（外機密）

蘭側ヨリ新聞談ニ依レハ日本政府ハ訓電ノ「バタヴイア」着ト同時ニ其ノ内容及政府所信ヲ東京ニ於テ發表ノ手筈ナル趣ノ處會商内容ノ發表ハ總テ兩代表部打合セノ上ニテ行フ了解ナルニ付右報道ハ間違ナルヘシト思考セラルルモ爲念注意ヲ喚起致シ置キ度シト通知越セリ訓電未着ニ付政府ノ御方針判明セサルモ假令決裂ノ場合ニ於テモ何等蘭側ニ内報スルコトナク會商ノ内容ヲ一方的ニ發表スルコトハ諒解ニ反スルノミナラス將來ノ爲ニモ面白カラス

外務省

S 2,2.0.0 -16　2125

2

ト認メラルルニ付御發表カ何等會商ノ内容ヲ含ム場合ニハ本使ニ於テ蘭側ト打合セノ上電報スルヲ待チテ是ヲ行ナハルルコトト致度

本電電信課ヲ放レタル時間午前十一時四〇分貴方到着時間御參考迄御回示ヲ請フ

（到着時間返電濟　電信課）

外務省

（了）

S 2,2.0.0 -16　2126

B-0156

来電写

電送総第　　　號

昭和　年　月　日　前/后　時　分發

電信案

暗 △ 平 略

合第一四四號

外機密

件名

轉電送

記録件名

宛　芳澤全権

發　松岡大臣

長館 主任

昭和十六年六月十五日起草

別電

昨年十月我方ヨリ日蘭印全般交渉開始方和蘭政府ニ提議セル處同政府モ原則的

電信案

ニ同意セルニ依リ自来具体的交渉開始方示
案件ト折衝ヲ重ネ居タルカ客年五月欧
洲戦争和蘭本国ニ波及シ蘭印ノモ影響
ヲ蒙ムルニ至リ殊ニ蘭印当局カ戦争目的
ニ動員セラルヽ結果日蘭印全般関係ハ重
大ナル悪影響ヲ蒙ムルノ形勢トナリタリ
東亜新秩序建設ニ邁進シ東亜諸民族

外務省

(原議用紙乙)

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

0415
1465

電信案

ノ緊密ナル協力ニ依リ共栄関係ノ確立ヲ期スル
帝国政府トシテハ欧洲戦争カ南方海面ニ迄
波及スルコトニ無関心タリ得サルハ勿論右防衛
建設ノ途上ニ在リテ蘭印資源ニ対スル期待
愈々加重スルハ明カニシテ早キニ及ンテ不可欠ノ
資源ヲ確保スルト共ニ日蘭印互恵協力関
係ヲ確立シ東亜ノ安定ヲ計ルノ要

外務省

(原議用紙乙)

0416
1466

電信案

切ナルモノアリシヲ以テ和蘭政府ニ対シ右関係
確立ニ資スル実施方ノ至急開始ヲ要求スル
一方不取敢蘭印ニ期待スル重要物資ニ付
其ノ対日供給ノ保証ヲ要求セリ之ニ対シ和蘭
政府ハ同国カ戦禍ニ巻キ込マレタル結果生シ
タル国際関係ノ変化ニ拘ハラス蘭印ノ対日経
済関係ハ依然円滑ニ維持スヘキ旨確言

外務省

(原議用紙乙)

B-0156
0150
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信案

シ且斯クスルコトカ蘭印ノ死活的利益ニ合致シ東亜ノ平和安定ニ資スルモノナルコトヲ確認シ積極的協力実践ノ意図ヲ明カニセリ

帝国政府ハ日蘭両国ノ右合意ヲ基礎ニ「バタビヤ」ニ於テ客年九月以来経済交渉ヲ続行シ其ノ円満ナル妥結ニ多大ノ努力ヲ拂ヒ来レル処日蘭交渉ハ物資獲得

外務省

（原議用紙乙）

電信案

問題ノミナラス一般通商関係ノ増進、邦人ノ入国、従業、企業投資、海運、航空及通信連絡等相当多岐ニ亘ルモノナルカ之本事項特ニ航空連絡、石油事業等何レモ我方ニ対シ極メテ寛大ニキョウヨセラレ居リ来所ニシテ従テ帝国政府ノ要求モ極メテ合理的ナルモノニシテ何レモ日蘭印互恵協力関係

外務省

（原議用紙乙）

B-0156

0151

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信案

促進ノ基礎ニ立テハ解決容易ナルモノナリ
之ニ対シ蘭印政府ハ其ノ政策ノ基調カ蘭印住
民ノ進歩繁栄及開放ニ在ルコトヲ強調シ居ル
モ我方提案カ何等右ト抵触セサルモノナル
コトハ明カニシテ寧ロ蘭印トシテハ日本トノ全面
協力関係ヲ確立シ東亜ノ平和安定ニ寄与スル
コトニ依リ右政策ヲ促進シ得ルコトハ言フヲ俟タス

外務省　（原議用紙乙）

電信案

然ルニ欧州戦ノ激化ト共ニ蘭印ヲ廻ル情勢ハ
交渉ノ円満ナル進捗ヲ困難ナラシムルニ至リ
去ル六日ノ蘭印側回答ハ甚タ不満足ナルノミ
ナラス殊ニ我方ノ重視スル必需物資獲得
ノ問題ニ付テハ蘭側ノ都合ニ依リ随時其ノ
数量ヲ減少シ得ルコトト為スコトヲ主張セリ
此ノ問題ニ付テハ従来友好和蘭政府及蘭印

外務省　（原議用紙乙）

B-0156
0152
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信案

当局ノ約束アリ言明アルコトニモアリ今次蘭側回答ノ如キ内容ニテハ此ノ際特ニ右際協定ト夫ニ足ラサルモノト認メ会商ハ之ヲ打切リ代表部ヲ引揚ケシムルコトニ決シタル次第ナリ
然シ乍ラ帝国トシテハ其ノ公正ナル主張ハ依然之ヲ堅持スルハ謂フヲ俟タス右会商打切ニ依リ日蘭印間ノ平常関係ハ今後モ何

外務省　（原議用紙乙）

S 2.2.0.0-16　2135

電信案

等ノ影響ヲ受クルモノニ非ス（了）

外務省　（原議用紙乙）

S 2.2.0.0-16　2136

B-0156
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(分類 一田)

通商局 第六課

電送第 32314 號

(暗) 平略 昭和16年6月14日 後9時20分發

主管 通商局長

件名：全面打切ニ関スル発表方ニ付蘭側申出ノ件

宛：在バタビア 芳沢代表

發：松岡大臣

暗号第四八號

昭和十六年六月十四日起草

電信案

貴電合第一三三六号ニ関シ

我方ノ発表文案ハ既電ノ通ニテ交渉内容ニハ殆ド立入ツテ触レ居ラズ単ニ全面打切、代表部引揚ゲノ事実及我方ニ於テ打切リ已ムヲ得ストスル理由ヲ円曲ニ述ベタル迄ニテ、交渉妥結ノ場合ナラバ兎モ角、打切リノ場合ニ於ケル此種発表ニ付蘭側ノ干渉ヲ受クベキ限リニ非ズ

加之昨年十一月買油交渉妥結ノ際我方代表ニ於テ反対セルニ拘ラズ蘭側ハ其ノ数量ヲ石油業者ヲシテ一方的ニコムミュニケトシテ発表セシメ右ガ米英等ニ伝ハリタル蘭側不信ノ事例アリ

発表内容ヲ事前ニ蘭側ニ内示スルコトハ宣伝上モ不得策ナリト思考スルニ依テ蘭側ニ対シ全面打切リ通告ノ際右趣旨ヲ述ベラレ先方ノ申出ヲ一蹴セラレ度シ

尤モ右ニ関シ更ニ何等ノ意見アラバ折返シ回電ヲ乞フ

外務省

(日本標準規格B5)

S 2.2.0.0-16

2137 2138

14 105

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

（分類　　）

電信案

主管	電送第　號
暗	昭和16年6月14日後6時50分發
件名	日蘭印交渉ニ関スル内容暴露 新聞発表文案（別電）
宛	在バタヴィア 芳澤代表
發	外務大臣

合暗第一四六號（　）

昭和十六年六月十四日起草

最近蘭印ヲ繞ル情勢ハ「バタヴィア」ニ於ケル昨年九月以来行ヒ来レル日蘭経済交渉ノ円満ナル進捗ヲ困難ナラシムルニ至リ六日蘭側代表ヨリ回答アリタル程度ノ

尚蘭側ガ交渉中ニ於テスラ屢々其ノ内容及経過ヲ逐一英米等ニ内報セルコトハ確実ナル情報ニ依リテ明瞭ナル事実ナルノミナラズ五月十四日ノ我方提案及六月六日ノ蘭側回答ノ如キモ平文ニテ之ヲ在京和蘭公使ニ電報シ居リ、右ハ恐ラク在倫敦和蘭政府ニ（ハ勿論其ノ在外使臣）ニシテモ同様電報シ居ルコト、思考セラレ、其ノ態度及措置振不都合千万ナルニ付右記事ノ際此ノ点モ併セ指摘セラレ度シ

外務省

（日本標準規格B5）
S 2.2.0.0-16
B-0156
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

...0945
54.5

電信案

外務省

内容ノモノニテハ此際特ニ國際協定トナスニ足ラスト認メ
政府ハ今次米提ヲ切ルコトニ決シ芳澤全權ニ歸
朝命令ヲ発シタリ

（原議用紙乙）

S 2.2.0.0-16

2141

B-0156

0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外機密

大臣
次官
歐亞局長

電信課長
發電係

（分類 S 2.2.0.0-16）

主管	通商局長
主任	第一課長
電送第	22298 號
昭和	16年6月14日 後8時15分
暗	第一四七號
宛	在「バタヴィア」芳澤代表
件名	蘭印交渉打切ニ關スル件（回訓）
發	松岡大臣
記錄件名	

昭和十六年六月十一日起草

館長符号扱

電信案

貴電第二二七號ニ關シ

今回蘭側回答ハ不當ニシテ應諾ノ限リニ非ザルノミナラズ右回答ヲ基礎トシテ交渉ヲ繼續スルコトモ無意味ナルニ付政府ハ此際貴見通リ會商ヲ打切リ貴代表及代表部全員ノ引揚ケヲ行フコトニ決定

外務省

（日本標準規格B5）

2142

14 99

B-0156

0157

セルニ付左記諸點御含ミノ上善處相成度

一、手續上愼重ヲ期スル爲貴代表ニ於テハ一應總督ト會見セラレ我方最後案ハ若シ之ヲ發表スルトキ輿論ノ攻撃ニ遭ヒ内閣ハ極メテ困難ナル立場ニ陷ルヘキモ日蘭印關係ヲ顧念シ難キヲ忍ヒテ讓歩シタル次第ナリト説明セラレ大局的見地ヨリ其ノ猛省ヲ促サレ總督ニ於テ再考ノ余地ナキ旨言明シタル場合ハ直ニ會商打切、代表引揚ヲ通告セラレ度シ

電信案

外務省

三、日蘭印間一般通商經濟關係ハ從來通保持セラルヘキモノナリトノ點ヲ明確ナラシムルコトヲ希望スルモ先方ニ對シ積極的ニ斯ル申出ヲ爲スコトノ可否ハ貴代表ノ御裁量ニ一任スヘシ

三、若シ先方ニ於テ希望スルナラバ引續キ石澤總領事ヲシテ話合ヲ續行セシムルコトアルベキ旨ヲ明カニセラレ度ク、從テ此ノ際日蘭印關係ガ決裂シタルガ如キ形ハ之ヲ避クルモ代表部トシテハ會商ヲ打切リ引揚グルモノナルコトヲ明カニセラレ度シ

電信案

外務省

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

四、當方ニ於テハ外部ニ對シ全様ノ趣旨ニ依リ全然決裂セルガ如キ印
象ヲ與フルコトハ努メテ避ケ輿論ノ激化ヲ防ク方針ナルニ付貴代
表部ニ於テモ同一歩調ニ出デラレ度ク我方決定ノ當地ニ於ケル發
表ハ貴代表ノ會商打切通告直後ト致度ニ付平文ニテ「通告濟」ト
電報アリ度シ尚發表ノ形式ハ會商打切ニ關スル簡單ナル情報局發
表ニ石井部長談ヲ附加スル豫定ナリヤガ内容ハ決定次第要領電報ス
ヘキモ付貴代表引揚ノ際ニ於ケル發表ハ之ト符合セシムル様御配

（要領別電第四四号）
（要領別電第四四号）

（日本標準規格B5）
S 2,2,0,0 -16

慮アリ度シ

五、代表部引揚ゲノ時期ハ貴代表ニ御一任ス但シ石油關係者ハ代表部
ト引キ離シ引キ續キ居殘リ交渉ヲ繼續シ得ル様御配慮ヲ乞フ

（日本標準規格B5）
S 2,2,0,0 -16

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

（分類 S 2.2.0.0-16）

電信案

暗

電送第 22518 號

昭和16年6月 日 後 發

件名：日蘭印經濟交渉ニ關スル件

宛：在バタヴィア 芳澤代表

發：松岡大臣

第 四四四 號

（別電）

一昨年十月日蘭印經濟交渉開始方和蘭政府ニ提議セル處……
中本公使ヨリ具体的交渉開始方蘭側ト折衝ヲ……

外務省

昭和十六年六月十四日起草

(日本標準規格B5)

S 2.2.0.0-16　2148

内閣情報局發表（案）

最近蘭印ヲ繞ル情勢ハ客年九月以來「バタヴィア」ニ於テ續行シ來レル日蘭經濟交渉ノ圓滿ナル進捗ヲ困難ナラシムルニ至リ六月六日和蘭側代表ヨリ回答アリタル程度ノ内容ノモノニテハ此際特ニ國際協定トナスニ足ラズト認メ帝國政府ハ今次交渉ヲ打切ルコトニ決シ芳澤代表（使節）ニ對シ歸朝命令ヲ發シタリ

外務省

(日本標準規格B5)

S 2.2.0.0-16　2147

B-0156

0160

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信案

客年五月欧洲戦争ノ和蘭本國ニ波及シ蘭印ニ甚
影響ヲ蒙ルニ至リ殊ニ蘭印経済カ戦争目的ニ動員セラ
ルル結果日蘭印経済関係ハ重大ナル悪影響ヲ蒙ルニ於
勢トナリタリ帝國ハ東亜新秩序建設ニ邁進シ東亜諸民族ノ緊密
ナル協力ニ依ル共栄関係ノ確立ヲ期スル帝國政府トシテハ
欧洲戦争ノ南方海面ニ迄波及スルコトニ無関心タリ得サル
ハ勿論國防國家建設ノ途上ニアリテ蘭印資源ニ対スル

外務省

（原議用紙乙）

S 2.2.0.0-16

電信案

期待益々加重スルハ明カニシテ早キニ及ヒテ不可欠ノ資源
ヲ確保スルト共ニ日蘭印経済協力関係ヲ確立シ
東亜ノ安定ヲ圖ルノ要切ナルモノアリシヲ以テ和蘭政府ニ
対シ右関係確立ニ関スル交渉ノ至急開始ヲ要求スル一方
不取敢蘭印ニ期待スル重要物資ニ付対日供給ノ保
障ヲ要求セリ之ニ対シ和蘭政府ハ同國カ戦禍ニ捲込マ
レタル結果生シタル國際関係ノ変化ニ拘ラス蘭印ノ対日経済

外務省

（原議用紙乙）

S 2.2.0.0-16

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信案

関係ハ依然圓滑ニ繼續スヘキ旨ヲ確言シ且斷スルコト
ヲ蘭印ノ死活的利益ニ合致シ東亜ノ平和安定ニ貢スル
モノナルコトヲ確認シ積極的協力實踐ノ意圖ヲ明カニスヘク
(二)(新案) 帝國政府ハ日蘭間ノ一般的合意ヲ基礎ニ「ハタケイ」ニ
於テ客年九月以来經濟交渉ヲ續行シ其圓滿ナル妥
結ニ多大ノ努力ヲ拂ヒ来レル處日蘭印交渉ハ單ニ
物資獲得問題ノミナラス一般通商關係ノ増進、邦人ノ

外務省 (原議用紙乙)

電信案

蘭印入國、從業、企業投資、海運、航空及通信連絡
等相當多岐ニ亘ルモノナルカ是等事項特ニ航空連絡、
石油事業等何レモ第三國ニ對シ極メテ寛大ニ許可セラレ
居ル所ニシテ從テ帝國政府ノ要求モ極メテ合理的ナルモノニ
テ何レモ日蘭印經濟協力關係促進ノ基礎ニ立テハ
解決容易ナルモノナリ
(三) 之ニ對シ蘭印政府ハ其政策ノ基調ヲ蘭印住民ノ進歩、

外務省 (原議用紙乙)

B-0156
0162
アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records http://www.jacar.go.jp/

繁栄及解放ニアルコトヲ強調シ居ルモ我方提案ノ何等右ト抵触セザルモノナルコトハ明カナルニ寧ロ蘭印トシテハ日本トノ経済協力関係ヲ確立シ東亜ノ平和安定ニ寄与スルコトニ依リ右政策ヲ促進シ得ルコト言ヲ俟タス

(四)然ルニ経済戦ノ激化ト共ニ蘭印ヲ繞ル情勢ハ交渉ノ圓満ナル進捗ヲ困難ナラシムルニ至リ今日ノ蘭側回答ハ甚ダ不満足ナルノミナラス殊ニ我方ノ重視スル必需物資獲得ノ問題ニ付テハ蘭側ノ都合ニ依リ随時其数量ヲ減少シ得ルモノトナスコトヲ主張セリ此問題ニ付テハ従来度々和蘭政府及蘭印当局ノ約束乃至言明アルコトモアリ今次蘭側回答ノ如キ内容ニテハ此際特ニ國際協定トナスニ足ラザルモノト認メ会商ハ之ヲ打切リ代表部ヲ引揚クルコトニ決シタル次第ナリ

(五)然シ乍ラ帝国トシテハ其公正ナル主張ハ依然之ヲ堅持スルハ

電信案 外務省 (原議用紙乙)
B-0156
0163
アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records http://www.jacar.go.jp/

電信案

言ヲ俟タス尚今回會商打切ニ依リ日蘭印間平常関係
ハ今後何等ノ影響ヲ受クルモノニ非ス

外務省

(原議用紙乙)

S 2.2.0.0-16 2155

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

往電寫

極秘

外機密

總番號 二二二九六

符號略 一

昭和十六年六月十四日後八時十五分發

主管 南一 通六

電信課作成

在「バタヴイア」芳澤代表　松岡外務大臣

蘭印交渉打切ニ關スル件　同訓

第一四七號（至急、館長符號扱）

貴電會商第二二七號ニ關シ

今回蘭側回答ハ不當ニシテ應諾ノ限リニ非サルノミナラス右回答ヲ基礎トシテ交渉ヲ繼續スルコトモ無意味ナルニ付政府ハ此際貴見通リ會商ヲ打切リ貴代表部全員ノ引揚ケヲ行フコトニ決定セルニ付左記諸點御含ミノ上善處相成度

S 2.2.0.0-16

一、手續上愼重ヲ期スル爲貴代表ニ於テハ一應總督ト會見セラレ貴方最後案ハ若シ之ヲ發表スルトキハ輿論ノ攻撃ニ遭ヒ内閣ハ極メテ困難ナル立場ニ陷ルヘキモ日蘭印關係ヲ顧念シ難キヲ忍ヒテ讓歩シタル次第ナリト説明セラレ大局的見地ヨリ其ノ猛省ヲ促サレ總督ニ於テ再考ノ餘地ナキ旨言明シタル場合ハ直ニ會商打切、代表引揚ヲ通告セラレ度シ

二、日蘭印間一般通商經濟關係ハ從來通保持セラルヘキモノナリトノ點ヲ明確ナラシムルコトヲ希望スルモ先方ニ對シ積極的ニ斯ル申出ヲ爲スコトノ可否ハ貴代表ノ御裁量ニ一任スヘシ

三、若シ先方ニ於テ希望スルナラハ引續キ石澤總領事ヲシテ話合ヲ

S 2.2.0.0-16

B-0156

0165

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

綴行セシムルコトアルヘキ旨ヲ明カニセラレ度ク、從テ此ノ際
日蘭印關係カ決裂シタルカ如キ形ハ之ヲ避クルモ代表部トシテ
ハ會商ヲ打切リ引揚クルモノナルコトヲ明カニセラレ度シ
四當方ニ於テハ外部ニ對シ同樣ノ趣旨ニ依リ全然決裂セルカ如キ
印象ヲ與フルコトハ努メテ避ケ與論ノ敵化ヲ防ク方針ナルニ付
貴代表部ニ於テモ同一歩調ニ出テラレ度ク我方決定ノ當地ニ於
ケル發表ハ貴代表ノ會商打切通告直後ト致度ニ付平文ニテ「通
告濟」ト電報アリ度シ尚發表ノ形式ハ會商打切ニ關スル簡單ナ
ル情報ヲ發表（要領別電會商第一四六號）ニ石井部長談（要領
別電會商第一四四號）ヲ附加スル樣定ナリ貴代表引揚ノ際ニ於

ケル發表ハ之ト符合セシムル樣御配慮アリ度シ
五代表部引揚ケノ時期ハ貴代表ニ御一任ス但シ石油關係者ハ代表
部ト引離シ引キ續キ居殘リ交涉ヲ繼續シ得ル樣御配慮ヲ請フ

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

往電寫

極秘

外務省

總番號 二二二七六

符號（暗）

昭和十六年六月十四日後六時五〇分發

主管 電一

在バタヴィア 芳澤代表　　松岡外務大臣

日蘭印交渉ニ關スル内閣情報局發表文案

會計第一四六號　　亞局、調書

最近蘭印ヲ繞ル情勢ハ「バタヴィア」ニ於テ昨年九月以來行ヒ來レル日蘭印經濟交渉ノ圓滿ナル進捗ヲ困難ナラシムルニ至リ去ル六日蘭側代表ヨリ回答アリタル程度ノ内容ノモノニテハ此際特ニ國際協定トナスニ足ラスト認メ帝國政府ハ會商ヲ打切ルコトニ決シ芳澤使節ニ歸朝命令ヲ發シタリ

電信課作成

S 2,2.0.0-16　　2160

B-0156

0167

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外務省

極秘

往電寫

総番號 二二三一八

符號（暗） 昭和十六年六月十四日後十時四十分發 主管一課

在バタヴイア　芳澤代表　松岡外相大臣

日、蘭印會商打切ニ關スル石井部長發話案文（別電）

會商第一四四號（至急）

（一）昨年十一月我方ヨリ日蘭印經濟交渉開始方和蘭政府ニ提議セル處同國政府モ原則的ニ同意セルニ依リ爾來具體的交渉開始方蘭側ト折衝ヲ重ネ居タルカ客年五月歐洲戰爭和蘭本國ニ波及シ蘭印モ影響ヲ蒙ルニ至リ殊ニ蘭印經濟カ戰爭目的ニ動員セラルル結果日蘭由經濟關係ハ重大ナル惡影響ヲ蒙ルノ形勢トナリタ

S 2,2,0,0 -16　2161

リ東亞新秩序建設ニ遭遇シ東亞諸民族ノ緊密ナル協力ニ依ル共榮關係ノ確立ヲ期スル帝國政府トシテハ歐洲戰爭カ南方海面ニ及ヒテ不可缺ノ資源ヲ確保スルト共ニ日蘭印經濟協力關係ヲ確立シ東亞ノ安定ヲ圖ルノ要切ナルモノアリシヲ以テ和蘭政府ニ對シ右關係確立ニ關スル交渉ノ至急開始ヲ要求スル一方不取敢蘭印ニ期待スル重要物資ニ付其ノ日供給ノ保障ヲ要求セリ之ニ對シ和蘭政府ハ同國カ戰爭ニ捲込マレタ結果生シタル國際關係ノ變化ニ拘ラス蘭印ノ對日經濟關係ハ依然圓滑ニ繼續スヘキ

S 2,2,0,0 -16　2162

B-0156

旨ヲ確言シ且斯クスルコトカ蘭印ノ死活的利益ニ合致シ東亜ノ平和安定ニ資スルモノナルコトヲ確認シ積極的協力實踐ノ意圖ヲ明カニセリ

(二)帝國政府ハ日蘭間ノ右合意ヲ基礎ニ「バタヴィア」ニ於テ客年九月以來經濟交渉ヲ續行シ其圓滿ナル妥結ニ多大ノ努力ヲ拂ヒ來レル處日蘭印交渉ハ物資獲得問題ノミナラス一般通商關係ノ增進、邦人ノ入國、從業、金業投資、海運、航空及通信連絡等相當多岐ニ亘ルモノナルカ是等事項特ニ航空連絡、石油事業等何レモ第三國ニ對シ極メテ寬大ニ許可セラレ居ル所ニシテ從ヒ帝國政府ノ要求モ極メテ合理的ナルモノニテ何レモ日蘭印經濟

協力關係促)進ノ基礎ニ立テハ最決容易ナルモノナリ

(三)之ニ對シ蘭印政府ハ其政策ノ基調カ蘭印住民ノ適歩、繁榮及解放ニアルコトヲ強調シ居ルモ我方提案カ何等右ト牴觸セサルモノナルコトハ明カニシテ擧ロ蘭印トシテハ日本トノ經濟協力關係ヲ確立シ東亜ノ平和安定ニ寄與スルコトニ依リ右政策ヲ促進シ得ルコト固ヲ俟タス

(四)然ルニ經濟戰ノ激化ト共ニ蘭印ヲ繞ル情勢ハ交渉ノ圓滿ナル進捗ヲ困難ナラシムルニ至リ去ル六日ノ蘭側回答ハ甚タ不滿足ナルノミナラス殊ニ我方ノ重視スル必要物資獲得ノ問題ニ付テハ蘭側ノ都合ニ依リ臨時其數量ヲ減少シ得ルモノトナスコトヲ主

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

.0458

張セリ此間題ニ付テハ從來度々和蘭政府及蘭印當局ノ約束乃至
言明アルコトニモアリ今次會議ノ議題ニモ上リ會議側問答ノ如キ内容ニテハ此際特ニ
國際協定トナスニ足ラサルモノト認メ會商ハ之ヲ打切リ代表部
ヲ引揚クルコトニ決シタル次第ナリ
(五)然シ乍ラ帝國トシテハ其公正ナル主張ハ依然之ヲ堅持スルハ勿論
フヲ待タス尚會商打切ニ依リ日蘭印間平常關係ハ今後モ何等ノ
影響ヲ受クルモノニ非ス

S 2.2.0.0 -16

2165

B-0156

暗　昭和十六年六月十四日午後八時發　通六

秘

屈貨金利用ノ爲關印產物ノ買付方ニ關スル件

在「バタヴイア」　石澤總領事　松岡外務大臣

第三一八號（極祕）

一、政府ハ最近著增シタル屈貨金ヲ利用シ左記關印物產ノ至急買付方決定セリ

(イ)玉蜀黍二萬八千噸（「スラバヤ」宛往電第六八號ノ一萬五千噸ヲ除ク）

(ロ)「カツサバ、ルート」一萬九千九百噸

(ハ)砂糖十萬噸

(ニ)「サイザル」四萬噸

(ホ)「キニーネ」六十八噸

(ヘ)糖蜜五萬四千噸

二、關側回答ニ依レハ右物產中玉蜀黍、「カツサバ、ルート」ヲ除ク

外務省

外ハ值段ヲ附シ居ルモ砂糖ノ買增ニ異議ナカルヘク「キニーネ」ハ最初關側カ何程ニテモ買付ケニ應スル意向ヲ示シ又「サイザル」糖蜜ニ付テハ意見陳述ヲ留保シ居ルモ兎モ角問題ヲ商取引ニ移シ買付ケ實行ニ取掛ルコトトセル次第ナリ

二、尙本件ハ全部ノ輸入代行社確定次第統制アル買付ヲ爲サシムヘキニ付不取取捨考ノ爲別記物產ノ出廻リ狀況、ドシ〳〵「キロ」建相場竝御取調ノ上買付ニ關スル御氣付ノ點ト共ニ大至急囘電アリ度尙兼者ノ思惑買ニ依ル值段上リ等來ササル樣御配慮相成度

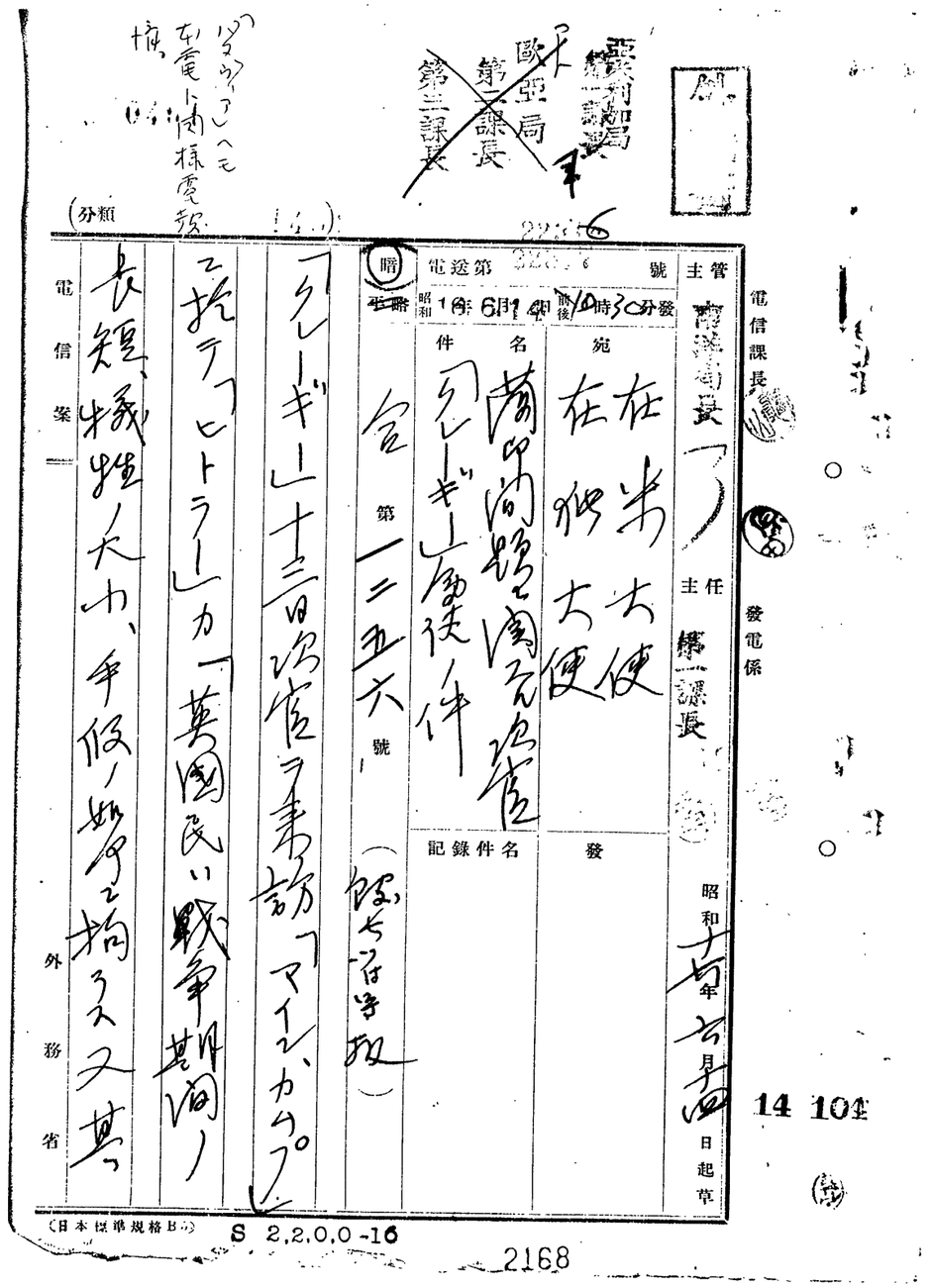
本電爲代表部ヘ又付アリ度

「スラバヤ」ヘ轉報アリ度

外務省

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



電信案

軍備ニ於テ他國ニ比シ劣リ居ル場合ト雖モ勝利ヲ得ル迄戰鬪ヲ囘避スト書キ居ル點ヲ指摘シ居ル後英國ハ必ス勝ツヘク又萬一獨逸カ勝利ヲ得タル時ハ世界ヲ征服スル危險アリ從テ獨逸ハ蘭印ニ野心ヲ有スルコト、米、蘇聯モ將ニ戰爭ニ捲キ込マルルコト必定ナルニ日本獨リ中立ヲ維持シ得ル絶好ノ地位

外務省

電信案

ニ在ル ~~（抹消）~~ 説キ居ル後日本カ蘭印ニ向ツテ野望ニ侵シ實力行使ノ場合英國亦捲キ込マルルコトトナルヘク今次蘭印側回答ニ對シ日本政府 ~~態度~~ ハ如何ニ處置セラルルヤト質問シ居ルニ次官ハ苦笑發表ヲ引揚クルコトニ決定セリト答ヘタルニ付込ミ引揚後某案ニ於テ和蘭公使ト交渉ヲ繼續セラルル積リナリヤト問ヒタリ

外務省

B-0156
0173
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

タルニ在
[illegible]官ヲ顧ル考ヘナク強行ニ委ス外ナ
シ實際外務省トシテハ如何ニカシテ平和的
ニ局面ヲ妥結セシメントスル熱意[illegible]ヨリ
若シ公表スレハ與論ノ攻撃非難ニ堪エ
サルカ如キ軟弱ナル提案ヲ為シ蘭側ノ
乗セ易キモノタラシメタルニ拘ラス之ヲモ

全面的ニ拒否シタリ
蘭側提案カ現時ノ國内與論ニ鑑ミ如何
ニ軟弱ナルモノナルカハ我事務當局中ニハ
斯ノ如キ案ニテ妥結シ公表シタル場合[illegible]
與論ノ攻撃ヲ受クルヲ以テ寧ロ纏マ
ラサル為ノ公表ノ必要モナキニ至レルコトヲ
喜フモノスラ存スルコトニテモ知ラルル([illegible])

B-0156
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信案

又本問題ハ結局単ニ漁業問題トシテ新聞等ニ
現ハルルモノハ大体後段ト見ルヘキモ[illegible]
各種報道ニ因リ国民カ将ニ動キ出スヤハ
全ク憤慨シ強ク案ニ心痛シ居ル次第ナリ
従テ先般私ヨリ貴使ニ語リタル所ハ全然
急ヲ要スル感情緩和ノ為寛容其他ナリ
私ハ友人トシテ私見ヲ述ヘタル迄ナリ

外務省

電信案

ン又ハ本国筋ヘ報告セラレサル様致度ト述
ヘタルニ「ク」ハ日本ニハ（日本有識者ノ一部）蒙印台独ヲ唱フル者
ハ数多アルコト又日本海軍ノ勢力ニ（危険ナル）
南方ニ向ハン事ハ英国モ熟知シ居リ英国ニ於テハ
故意ニ錫等ノ対日再輸出ヲ甚シク制限
日本ニ輸出セサル理由ナシト思ヒ居ルカ日本
ハ対独再輸出セストノ保証ヲ英国側ヘ

外務省

B-0156
0175
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

0415

電信案

外務省

（日本標準規格B5）
S 2,2,0,0-16

0415

日蘭印交渉打切ニ關スル石井部長談話（案）

帝國政府ハ夙ニ昭和十四年十一月日蘭印經濟交渉開始方和蘭政府ニ提議シ其ノ原則的同意ヲ取付ケタルト上不取敢我方提案要綱ヲ内示スルト共ニ具體的交渉開始方ニ付東京ニ於テ屢次蘭側ト折衝ヲ遂ゲタノデアルカ昭和十五年五月歐洲戰爭ハ遂ニ和蘭本國ニ波及シ蘭印モ從テ其ノ影響ヲ蒙ムルニ至リ東亞新秩序建設ニ邁進スル帝國トシテ無關心タリ得ナイ情勢ヲ展開シタノデ帝國政府ハ和蘭政府ニ對シ日蘭印間經濟協力關係確立ニ關スル交渉ノ至急開始ヲ要求シタ

當時ノ情勢ヲ回顧スルニ和蘭政府ハ倫敦ニ移轉シ英國ト同盟關係ニ立ツテ戰爭遂行ニ邁進スルコトトナリ蘭印經濟モ從テ戰爭目的ニ動員セラルル結果日蘭印經濟關係ハ重大ナル惡影響ヲ蒙ムル形勢ニアツタ帝國政府トシテハ東亞諸民族ノ緊密ナル協力ニ依ル共榮關係ノ確立ヲ期スル必要カラ歐洲戰爭ガ南方海面ニ迄波及スルコトニ無關心

外務省

（日本標準規格B5）
S 2,2,0,0-16

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

タリ得ナイノハ勿論、國防國家建設ノ途上ニアッテ蘭印資源ニ對スル期待ハ益々加重スルハ明カデアリ早キニ及ンデ不可欠ノ資源ヲ確保スルト共ニ進ンテ日蘭印經濟協力關係ヲ確立シテ東亞ノ安定ヲ圖ルノ要切ナルモノガアッタノデ不取敢和蘭政府ニ對シ客年五月當時ノ情勢ニ於テ蘭印ニ期待スル重要物資ニ付其ノ對日供給ノ保障ヲ要求シ之ニ對シ和蘭政府ハ和蘭ガ戰禍ニ捲込マレタ結果生シタ國際關係ノ變化ニ拘ラズ蘭印ノ對日經濟關係ハ依然圓滑ニ繼續スヘキ旨ヲ確言シ且斯クスルコトガ蘭印ノ死活的利益ニ合致シ東亞ノ平和安定ニ資スルモノナルコトヲ確認シ積極的協力實踐ノ意圖ヲ明ニシタ帝國政府ハ日蘭間ノ敍上ノ合意ヲ基礎ニ「バタビア」ニ於テ客年九月以來經濟交涉ヲ續行シ其ノ圓滿ナル妥結ニ多大ノ努力ヲ拂ッテ來タノデアル

日蘭印交涉ハ單ニ物資獲得問題ノミナラス一般通商關係ノ增進、邦人ノ蘭印入國、從業、企業投資、海運、航空及通信連絡等相當多岐

ニ亘ルモノデアルガ是等ノ事項、特ニ航空連絡ノ如キ既ニ第三國ト蘭印ノ間ニ實施中デアリ企業投資ニシテモ石油事業ノ如ク英米資本ノ活躍目覺シキモノアリ何レモ第三國ニ對シテ極メテ寬大ニ許可セラレ居ル所デアル從テ帝國政府ノ要求モ極メテ合理的ナモノデ豐富ナル蘭印資源ノ開發ニ參加スルコトト之ニ伴フ邦人ノ蘭印渡航、從業、開發物資ノ輸送ノ爲ノ邦船不開港地寄航及一部沿岸航路ノ開放竝ニ現地邦人漁業ノ發展等何レモ日蘭印經濟協力關係促進ノ基礎ニ立テハ解決容易ノモノデアル

之ニ對シ蘭印政府ハ其ノ政策ノ基調ガ蘭印住民ノ進歩、繁榮及解放ニアルコトヲ強調シテヰルカ我方提案ガ何等右ト牴觸セサルモノデアルコトハ明カデ寧ロ蘭印トシテハ日蘭印經濟協力關係ヲ確立シ東亞ノ平和安定ニ寄與スルコトニ依リ其ノ住民ノ進歩、繁榮及解放ヲ促進シ得ルモノナルコトハ言ヲ俟タナイ所デアル

然ルニ最近經濟戰ノ激化ト共ニ蘭印ヲ繞ル客觀的情勢ハ交涉ノ圓滿

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

0416

ナル進捗ヲ困難ナラシムルニ至リ、六月六日ノ和蘭側回答ハ甚ダ不満足ナルノミナラズ殊ニ我方ノ重視スル必需物資獲得ノ問題ニ付テハ和蘭側ノ都合ニ依リ隨時(其ノ數量ヲ)減少シ得ルモノトナス(コトヲ)主張シテ居ル。此ノ問題ニ付テハ從來度々和蘭政府及蘭印當局ノ約束乃至言明ガアルコトデモアリ今次蘭側回答ノ如キ內容ニテハ此ノ際特ニ國際協定トナスニ足ラザルモノト認メ、會商ハ之ヲ打切リ代表部ヲ引上(併シ)カシ帝國トシテハ其ノ公正ナル主張ハ依然之ヲ堅持スルコトハ言フヲ俟タヌ所(デ)アル尙今回ノ會商打切リニ依ッテ日蘭印間ノ平常關係ハ今後モ何等影響ヲ受ケルモノデハナイ。

外務省

(日本標準規格B5)
S 2,2.0,0-16

2179

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外機密

電信寫

昭和16　一六五四八　（暗）　バタヴイア　六月十五日後發
松岡外務大臣　本省　十六日前着
芳澤代表

會商第二三七號（大至急、館長符號扱）
貴電會商第一四七號ニ關シ
今回ノ御訓令ハ種々ノ意味ニ於テ非常ニ重大ニ之アリ從テ本使ノ腑ニ落チサル二、三ノ點ニ付御意見承知致度シ卽テ左記ニ關シ何分ノ儀大至急御回電請フ

一、總督ノ反省ヲ促スニ當リ「我方最後案ヲ發表スルトキハ輿論ノ攻撃ニ遭ヒ內閣ハ極メテ困難ナル立場ニ陷ルヘキモ」ノ文句ハ諸々ノ內閣ヲ相手トセス日本政府ヲ相手トシテ考ヘ居ル關側ニ執リ何

外務省

S 2,2,0,0 -16　2180

2

等意味ナキノミナラス我國內政事情ノ窮狀ヲ訴ヘテ關側ニ哀訴スルカ如キ結果トナリ日本帝國ノ威嚴ニ關スル惧アルヤニモ存セラルルニ付本便トシテハ右文句ハ之ヲ用ヒサルコト致度シ

二、日蘭印間ノ通常ナル一般經濟關係保持ニ付テハ關側回答中通商貿易關係前文末尾及二、末段ニ於テ之ニ言及シ居ルコトニモアリ又會商打切リ後ニ於ケル在留邦人七千ノ動搖ヲ阻止スル目的ヨリ考フルモ本使ヨリ積極的ニ申入レ出來得レハ共同「コムミユニケ」中ニ其ノ趣旨ヲ折込ム樣關側說得ニ努力スル積ニ付御含ミ置フ

三、石澤總領事ヲシテ話合ヲ續行セシムルコトアルヘキ旨ヲ申入ルルコトハ我方カ會商打切リニ依リ毅然タル態度ヲ表明セントシ

外務省

S 2,2,0,0 -16　2181

B-0156

乍ラ他面未練ヲ顧スモノトノ印象ヲ與ヘ帝國ノ威信上面白カラスト思考セラルルノミナラス前記ノ如キ申入ハ行ハストモ打切リ後ニ起ルヘキ諸種ノ問題ニ關シテハ總領事ニ於テ當然話合ヲ爲シ得ル筋合ナルニ付本件申入ハ爲ササルコトト致度シ

四、會商打切ト決裂トノ差異ハ何處ニ在リヤ承知致度シ本使トシテハ會商ノ打切ヲ通告スルコトハ卽チ會商ノ決裂ヲ意味スルモノト了解スル外ナク又貴電會商第一四六號發表文ハ何人カ見ルモ會商決裂ト解釋スル外ナカルヘキ處此ノ點ニ關シ更ニ明確ナル政府ノ御意嚮竝ニ打切ト決裂ノ英語併セテ御回電相煩度

五、石油關係ノ問題モ一般會商ノ一部ナルコトハ今更申上クル迄モナキ次第ナルニ拘ラス石油關係者ノミ居殘リ交涉ヲ繼續セシム

ルコトハ到底不可能ニテ右ハ本使ニ於テ努力スルモ顧慮ニ於テ承諾セサルコトハ理論上ヨリ言フモ又感情上ヨリ言フモ明白ナルニ付御含ミヲ請フ（了）

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外機密

昭和16　一六五四八　（暗）　バタヴィア　六月十五日後発
本　省　十六日前着

松岡外務大臣

會商第二三七號（大至急、館長符號扱）

貴電會商第一四七號ニ關シ

今回ノ御訓令ハ種々ノ意味ニ於テ非常ニ重大ニ之アリ從テ本使ノ腑ニ落チサル二、三ノ點ニ付御意見承知致度シ卽チ左記ニ關シ何分ノ儀大至急御回電請フ

一、總督ノ反省ヲ促スニ當リ「我方最後案ヲ發表スルトキハ輿論ノ攻撃ニ遑ヒ內閣ハ極メテ困難ナル立場ニ陷ルヘキモ」ノ文句ハ誰々ノ內閣ヲ相手トセス日本政府ヲ相手トシテ考ヘ居ル關側ニ執リ何

電信寫

等意味ナキノミナラス我國內政事情ノ窮狀ヲ訴ヘテ關側ニ哀訴スルカ如キ結果トナリ日本帝國ノ威嚴ニ關スル惧アルヤニモ存セラルルニ付本使トシテハ右文句ハ之ヲ用ヒサルコト致度シ

二、日蘭印間ノ通常ナル一般經濟關係保持ニ付テハ關側回答中通商貿易關係前文末尾及二、末段ニ於テ之ニ言及シ居ルコトニモアリ又會商打切リ後ニ於ケル在留邦人七千ノ動搖ヲ阻止スル目的ヨリ考フルモ本使ヨリ積極的ニ申入レ出來得レハ共同「コムミユニケ」中ニ其ノ趣旨ヲ折込ム樣關側說得ニ努力スル積ニ付御含ミ請フ

三、石澤總領事ヲシテ話合ヲ續行セシムルコトアルヘキ旨ヲ申入ルルコトハ我方カ會商打切リニ依リ毅然タル態度ヲ表明セントン

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外機密

電信寫

午ヲ俟テ未練ヲ殘スモノトノ印象ヲ與ヘ將來ノ成行上面白カラスト思考セラルルノミナラス前記ノ如キ申入ハ行ハストモ打切リ後ニ起ルヘキ諸種ノ問題ニ關シテハ帝國ニ於テ當然計合ヲ爲シ得ル態合ナルニ付本件申入ハ爲ササルコト致度ノ

四、會商打切ト決裂トノ差異ハ何處ニ在リヤ承知致度シ本使トシテハ御訓令會商ノ打切ヲ通告スルコトハ即チ會商ノ決裂ヲ意味スルモノト了解スル外ナク又貴情會商第一四六號發表文ハ何人カ見ルモ會商決裂ト解釋スル外ナカルヘキ處此ノ點ニ關シ更ニ明確ナル歐府ノ御意嚮竝ニ打切ト決裂ノ實際倂セテ御回電相煩度

五、石油關係ノ問題モ一般會商ノ一部ナルコトハ今更申上クル迄モナキ次第ナルニ拘ラス石油關係者ノミ居殘リ交渉ヲ繼續セシムルコトハ到底不可能ニテ右ハ本使ニ於テ努力スルモ際限ニ於テ承諾セサルコトハ理論上ヨリ言フモ又感情上ヨリ言フモ明白ナルニ付御含ミヲ請フ（了）

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

往電寫

極祕

歐亞局第三課長

在独、在米（在英）大使ヘモ転電ト同様電報ノ要アリ（英ヘハ米ヨリ転電）（六ノ一二五六）

總番號 二二三一九
號（符略）
昭和十六年六月十五日後十一時三〇分發
管 一

在バタヴィア 芳澤代表　　松岡外務大臣

（蘭印問題ニ關スル「クレーギー」次官會談）

第一四九號（館長符號扱）

十三日英國大使次官ヲ來訪「ヒトラー」カ「マイン、カムプフ」ニ於テ「英國民ハ鬪爭ノ期間ノ長短、犧牲ノ大小、手段ノ如何ニ拘ラス其ノ軍備カ他國ニ比シ問題トナラサル場合ト雖勝ツ迄鬪ヒ拔ク」ト書キ居ルコトヲ指摘シタル上英國ハ必ラス勝ツヘク萬一獨逸カ勝ツ場合ハ世界征服ノ危險性アリ殊ニ蘭印ニ對シテハ獨逸自ラ野心ヲ有スルコト及今ニ米、蘇共ニ戰爭ニ捲込マルルコト必

電信課作成

定ナルニ日本ノミ中立ヲ保チ得ル絶好ノ地位ニ在ルコトヲ說キ次テ蘭印問題ニ關シ日本カ蘭印ニ實力ヲ行使スル場合英國モ捲込マルルコトトナルヘキ處蘭側回答ニ對スル處置振如何ト問ヒタルニ依リ次官ハ芳澤代表引揚ニ決定セリト答ヘタルニ「ク」ハ引揚後當地ニ於テ和蘭公使トテモ交渉ヲ續ケラルル積リナリヤト問ヒタリ

右ニ對シ次官ハ左樣ノ考ヘ無ク今ハ成行ニ委スノ外無シ外務省トシテハ何トカシテ平和裡ニ本問題ヲ處理セントスル熱意ヨリ公表スレハ輿論ノ攻擊ニ堪ヘサルカ如キ軟弱ナル提案ヲ爲シ蘭側ヲシテ受ケ易カラシメタルニ拘ラス蘭側ハ之ヲモ全面的ニ拒否シタリ

B-0156
0183
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

我提案カ現下ノ我國内輿論ニ鑑ミ如何ニ軟弱ナルカハ我當務當局
中ニハ斯様ノ案ニテ纏マリ公表シテ輿論ノ攻撃ヲ受クルヨリモ禦
マラスシテ公表ノ必要無キニ至レルヲ喜フモノスラアルニ依リテ
モ知ラルヘシ然ルニ顧側ハ斯クノ如キ外務省ノ心盡シヲ無視セル
次第ナリ

又我國ノ本問題ニ對スル輿論ハ新聞等ニ表ハレタルカ如キ生溫キ
モノニ非ルコトハ昨今頻リニ各種團體カ當局ヲ訪問シ強硬ナル連
言ヲ爲シ居ルニ依リテモ知ルヲ得ヘク我等ハ今本問題ヲ纏リ我國
特有ノ危險ニシテ隱レタル政治的勢力カ如何ニ動キ來ルヘキカニ
付心配シ居リ從テ先ニ自分カ和蘭公使ニ述ヘタル所ハ何等顯引若

クハ威嚇ニ非ス實情其ノ儘ナリ然シ敍上ノコトハ友人トシテ私見
ヲ述ヘタルニ過キサルニ付本國等ニ報告セラレサル樣致度シト述
ヘタルニ「ク」ハ此國ニ關係印卽時占領論等ヲ唱フル過激分子アル
コト及日本ノ內閣カ際レタル勢力ニ動カサルル事實ハヨク之ヲ承
知シ居レリ饑饉、錫等カ輸送ニ行カサル以上日本ニ賣ラサル理由
ナシト英國ニ於テハ思ヒ居ルカ蘭側ニ對シ絶對ニ行カストノ保障
ヲ與ヘラレ居ル次第ナリヤト問ヒタルニ付次官ハ個人ニ行カサル
コトハ我方ノ繰返シ居ル所ナリト答ヘタリ

右會見ニ依リ次官ハ英側モ本問題カ最惡ノ事態ニ立至ルヘキコト
ヲ相當憂慮シ居ルヤノ印象ヲ受ケタル趣ナリ

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

往電寫

極秘

総番号 二三一九

符号（暗）

昭和 十六年 六月 十五日後十一時 三〇分發 南一 管

在バタヴイア 芳澤代表

（蘭印問題ニ關スル「クレーギー」英官會談）

第一四九號 館長符號扱

十三日英國大使次官ヲ來訪「ヒトラー」カ「マイン、カムプフ」ニ於テ「英國民ハ獨逸ノ期間ノ長短、徹牲ノ大小、手段ノ如何ニ拘ラス其ノ軍備カ他國ニ比シ問題トナラサル場合ト雖勝ツ迄闘ヒ拔ク」ト言キ居ルコトヲ指摘シタル上英國ハ必ラス勝ツヘク萬一獨逸カ勝場合ハ世界征服ノ危險性アリ殊ニ蘭印ニ對シテハ獨逸自ラ野心ヲ有スルコト及今ニ米、蘇共ニ戰爭ニ捲込マルルコト必

松岡外務大臣

電信課作成

S 2,2,0,0 -16 2192

0471

定ナルニ日本ノミ中立ヲ保チ得ル絶好ノ地位ニ在ルコトヲ說キ次テ蘭印問題ニ關シ日本カ蘭印ニ實力ヲ行使スル場合英國モ捲込マルルコトトナルヘキ處蘭側回答ニ對スル處置振如何ト問ヒタルニ依リ次官ハ芳澤代表引揚ニ決定セリト答ヘタルニ「ク」ハ引揚後當地ニ於テ和蘭公使トテモ交涉ヲ續ケラルル積リナリヤト問ヒタリ

右ニ對シ次官ハ左樣ノ考ヘ無ク今ハ成行ニ委スノ外無シ外務省トシテハ何トカシテ平和裡ニ本問題ヲ處理セントスル熱意ヨリ公表スレハ輿論ノ攻撃ニ堪ヘサルカ如キ軟弱ナル提案ヲ爲シ蘭側ヲシテ受ケ易カラシメタルニ拘ラス蘭側ハ之ヲモ全面的ニ拒否シタリ

S 2,2,0,0 -16 2193

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

0472

我提案カ現下ノ我國内輿論ニ鑑ミ如何ニ軟弱ナルカハ我事務當局中ニハ斯樣ノ案ニテ纏マリ公表シテ輿論ノ攻撃ヲ受クルヨリモ纏マラスシテ公表ノ必要無キニ至レルヲ喜フモノスラアルニ依リテモ知ラルヘシ然ルニ蘭側ハ斯クノ如キ外務省ノ心盡シヲ無視セル次第ナリ

又我國ノ本問題ニ對スル輿論ハ新聞等ニ表ハレタルカ如キ生溫キモノニ非ルコトハ昨今頻リニ各種團體カ當局ヲ訪問シ強硬ナル進言ヲ爲シ居ルニ依リテモ知ルヲ得ヘク我等ハ今本問題ヲ繞リ我國特有ノ危險ニシテ隱レタル政治的勢力カ如何ニ動キ來ルヘキカニ付心配シ居リ從テ先ニ自分カ和蘭公使ニ述ヘタル所ハ何等縣引若

0473

クハ戲噺ニ非ス實情其ノ儘ナリ然シ敍上ノコトハ友人トシテ私見ヲ述ヘタルニ過キサルニ付本國等ニ報告セラレサル樣致度シト述ヘタルニ「ク」ハ此國ニ蘭印即時占領論等ヲ唱フル過激分子アルコト及日本ノ内閣カ隱レタル勢力ニ動カサルル事實ハヨク之ヲ承知シ居レリ讃謨、錫等カ獨逸ニ行カサル以上日本ニ賣ラサル理由ナシト英國ニ於テハ思ヒ居ルカ蘭側ニ對シ獨逸ニ行カストノ保障ヲ與ヘラレ居ル次第ナリヤト問ヒタルニ付次官ハ獨逸ニ行カサルコトハ我方ノ繰返シ居ル所ナリト答ヘタリ

右會見ニ依リ次官ハ英側モ本問題カ最惡ノ事態ニ立至ルヘキコトヲ相當憂慮シ居ルヤノ印象ヲ受ケタル趣ナリ

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

0475

(分類　　　)

電信案

電送第	22319 號
昭和	16.6.15 前11時30分發
主管	南洋局長
電信課長	
主任	
發電係	
件名	（蘭印問題ニ関スル「グルー」次官会談）
宛	在バタヴィア 芳澤大使 在米 野村大使 在独 大島大使
發	松岡大臣
記録件名	

昭和十六年六月十四日起草

第一四九號（館長符号扱）

十三日英国大使次官ヲ来訪シ「ヒトラー」カ「マイン、カムプフ」ニ於テ「英國民ハ闘争ノ期間ノ長短、犠牲ノ大小、手段ノ如何ニ拘ラス又其ノ軍備カ他國ニ比シ問題トナラサル場合ト

(日本標準規格B5)

S 2.2.0.0-16　2196

電信案

雖モ戦ヲ勝チ抜ク」ト書キ居ルコトヲ指摘シタル上英國ハ必ス勝ツヘク万一独乙カ勝ツ場合ハ世界征服ノ危険性アリ殊ニ蘭印ニ対シテハ独乙自ラ野心ヲ有スル次第ニテ今ニ米蘇モ支ニ戦争ニ捲キ込マルルコト必定ナルニ日本ノミ中立ヲ保チ得ル如ノ地位ニ在ルコトヲ頼ナルヘク蘭印問題ニ関シ日本カ蘭印ニ實力ヲ行使スル場合英國ヲ捲キ込マルルコトトナルヘキ處本件蘭側回答ニ対スル處置振如何ト問ヒタルニ

（原議用紙乙）

S 2.2.0.0-16　2197

14 103

B-0156

0187

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信案

依リ次官ハ芳澤代表引揚ニ決定セリト答ヘタルニ付「ク」ハ引揚後当地ニ於テ和蘭公使トナホ交渉ヲ續ケラルル積リナリヤト問ヒタリ

右ニ対シ次官ハ右様ノ事ハ多分今ハ成行ニ委スノ外無シ

外務省トシテハ何トカシテ平和裡ニ本問題ヲ處理セントスル熱意ヨリ公表スレハ輿論ノ攻撃ニ堪ヘサルカ如キ軟弱ナル提案ヲ為シ蘭側ヲシテ受ケ易カラシメタルニ拘ラス

(原議用紙乙)

外務省

S 2.2.0.0-16

電信案

蘭側ハ之ヲモ全面的ニ拒否シタリ我提案カ現下ノ我国内輿論ニ鑑ミ如何ニ軟弱ナルカハ我軍部当局中ニ斯様ノ案ニテ纏マリ公表シテ輿論ノ攻撃ヲ受クルヨリハ纏マラスシテ公表ノ必要無キニ至ルヲ快トスルモノアルニ依リテモ知ラルヘシ、然ルニ蘭側ハ斯ノ如キ外務省ノ心盡シヲ無視セル次第ナリ

又我国ノ本問題ニ対スル輿論ハ新聞等ニ表ハレタルカ如ク生温キモノニ非ルコトハ昨今頻リニ各種團体カ当局ヲ

(原議用紙乙)

外務省

S 2.2.0.0-16

B-0156
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

紡出シ強硬ナル進言ヲ為シ居ルニ依リテモ知ルヲ得ヘク
我等ハ今本問題ヲ繞リ我国特有ノ危険トシテ隠レ
タル政治的勢力カ如何ニ動キ来ルヘキカニ付心配シ居リ
従テ先ニ自分カ和蘭公使ニ述ヘタル所ハ何等懸引
若クハ威嚇ニ非ス実情其儘ヲ述ヘタルモノナリ然シナカラ
斯ノコトハ友人トシテ私見ヲ述ヘタルニ過キサルニ付本国
等ニ報告セラレサル様致度シト述ヘタルニ[illegible]ハ此国ニ蘭印

S 2.2.0.0-16　2200

即時占領論等ヲ唱フル過激分子アルコト及日本ノ内閣
カ隠レタル勢力ニ動カサルル事実ハヨク之ヲ承知シ居レリ
護謨、錫等カ独逸ニ行カサル以上日本ニ責ヲ
サル理由ナシト思ヒ居ル（英国ニ於テハ）蘭側ニ対シ独逸ニ行カストノ保障
ヲ与ヘラレ居ル次第ナリヤト問ヒタルニ付次官ハ独逸ニ行カ
サルコトハ我方ノ繰返シ居ル所ナリト答ヘタリ
（新字）右会見ニ於ケル次官ハ英側モ本問題ノ最要ノ

S 2.2.0.0-16　2201

事態ニモ至ルヘキコトヲ相當憂慮シ居ルヤノ印象ヲ
受ケタル趣ナリ
~~本電宛先在ハタヴィア芳澤代表、在米、佛、各大使~~
~~米ヨリ英ヘ轉電アリ度シ~~

(原議用紙乙)

S 2.2.0.0-16

電信寫

外機密

昭和16　一六五四九　(暗)　バタヴィア　六月十六日前發
本省　十六日前着

松岡外務大臣　芳澤代表

會商第二三八號(大至急、館長符號扱)

往電會商第二三七號ニ關シ

十六日ハ國民參議會開會式ニテ總督面會ハ不可能、尚數日後總督ハ東部「ジャバ」ヘ旅行スルコトニ決定シ居ルニ付冒頭往電ニ對スル御回電ハ遲クトモ十七日朝迄ニ到達スル様御配慮ヲ請フ(了)

外務省

S 2.2.0.0-16

B-0156
0190
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外機密

秘

0493

1479

昭和16年（一九七〇五）帝國バタヴィア　六月十六日後發
本省　十七日夜着

松岡外務大臣

第五〇九？號

十六日國務參議會開會式ニ際シ總督ハ施政演説ヲ行ヒ内治、外交
各方面ニ亘リ過去ニ於ケル施設ノ概要ヲ説明セルカ日蘭會商ニ
關スル部分左ノ通

蘭印政府トシテハ國民ニ福祉增進、友好國ノ平和待遇、秩序行發
阻止ノ三原則ニ基キ對外交渉ヲ行フモノニシテ右原則ニ基キ既ニ
日本ノ利益ニ對シ好意的取扱ヲ與ヘ居ルモノナルニ拘ラス日本側
ヨリ客年來屢々ニ亘ル會商ノ開催ヲ申入レタルハ他方トシテ日本ニ

石射總領事

S 2,2,0,0-16　2204

電信寫

0493

1479

運ヒ得サリシ所ナリシモ爾ソ然ルニ會商開始後僅ニ數ケ日ニシテ日本ハ今次戰爭ニ於テ勝利ヲ得本國和蘭ノ領域ヲ蔽スヘキ地ト同地域ニ入リ引續キ蘭印ヲ所謂東亞共榮圏ニ包含セントスル意圖明ナルヲ夢シタルカ蘭印ハ右夢想ハ惡旨ニ反對ナル旨ヲ明瞭ナラシメタリ斯ル經緯ニモ拘ラス蘭側カ會商ヲ繼續セルハ善隣國トノ友誼ヲ希望スルカ故ナリシモ前述ノ原則ヲ堅持スル事コソ蘭印政府カ本國及當領ニ貢獻スル故ナリ依テ右方針ニ基キ去ル六日我方ヨリ日本側ニ對シ最後的回答ヲ手交セル次第ナリ（了）

S 2,2,0,0-16　2205

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(分類 一 ［illegible］)

電送第 22218 號

暗 第一五〇號 大

昭和16年6月［illegible］日 後8時00分發

主管 南洋局長
主任 第一課長
電信課長
發電係

昭和十六年六月十六日起草

件名：會商打切ニ関スル措置振ノ件

宛：在バタビア 芳沢代表

發：松岡大臣

貴電會商第二三七号ニ関シ

同電一ノ要ハ如何ニ我方ガ難キヲ忍ビ、断ル

リスク」スラ執リテ円満妥結ヲ図リ居ルカニ付

外務省

2206

B-0156

電信案

先方ヲ「コンヴィンス」セシムル[redacted]為ニシテ、蘭側ガ
我方最後案ヲ容レザレバ内閣ノ立場困難ト
ナルベシトテ訴[redacted]ルガ如キ趣旨ニハ非ザルニ付
右御含ミノ上然ルベキ言廻ハシヲセラレ度シ
二、同電二、ハ御来示ノ通措置セラレ度シ
三、同電三、及四、ニ付テハ蘭側回答ガ協定ノ
基礎トシテ取上ゲ得ザルモノナル以上會商ハ打切リノ外

外務省

電信案

無キモ、帝国政府トシテハ右ニ因リ日蘭印官ノ
一般関係ガ忽チ破局ニ瀕シ日蘭官民ニ干戈ニ
訴フルノ已ムヲ得ザル事態ガ現出セルガ如キ印象ヲ
内外ニ與フルヲ避クル為、穏カニ會商ヲ打切リ、
代表部ヲ引揚ゲ以テ我国民ヲ昂奮セシムルガ
如キ情勢ヲ誘致セシメザランコトスルニ在リ　従テ
用語モ have decided to discontinue トセラレ度シ。△

外務省

B-0156
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信案

rupture、又ハ決裂 以上ノ辞句ハ
使用相成ラサル様致シ 又石沢總領事
ヲシテ話合ヲ続行セシムルコト云々ノ点ハ右ノ如ク
日蘭印間通常ノ経済関係ハ維持セラルモノナリト
ノ見地ヨリ、會商ノ議題トナレル事項ニ付テモ
今後必要ニ應シ随時同總領事ヲシテ交渉ニ
当ラシムルノ用意アリトノ趣旨ヲ表シテ 我方ガ猶會商ニ敢ヘテ未練

外務省

(日本標準規格B5)
S 2.2.0.0-16 2209

電信案

口頭ニテ軽ク表示セラレ致シトノ意味ニテ 我方ガ
猶會商ニ未練ヲ残シ居ル様ナ如キ印象ヲ
先方ニ與フルハ本意ニ非サルニ付 此ノ辺ノ言ヒ廻シ
ハ貴官ニ於テ任カセス
四、[redacted] 石油関係者ノ残留ハ前記三、ノ趣旨ヨリ
関係廳ニ於テ（特ニ強ク）希望シ居ル次第ニ付 出来得ル限リ
斡旋相煩ハシ度 [illegible]

外務省

(日本標準規格B5)
S 2.2.0.0-16 2210

B-0156

電信案

要之、通常ノ経済関係ハ之ヲ保持スルノ見地ヨリ個々ノ問題ニ付テハ今後モ折衝スルノ要アル次第ナルニ付右趣旨ヲ以テ可然蘭側ニ対シ御応酬相成ル様御配慮ヲ~~仰度~~乞フ

（日本標準規格B5）
S 2.2.0.0-16
2211
B-0156
0195
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外機密

電信寫

昭和16　一六七六三　（略）　バタヴィア　發　六月十七日後

本省　着　十八日前

松岡外務大臣　宛　　芳澤代表

會商第二四二號ノ十一（至急、館長符號扱）

本使會商第二四七號及第一五〇號ニ關シ

十八日午後五時總督ト會見（「モ」「ホ」及石澤同席）本使ヨリ

五月十四日附我方提案ハ最モ妥協的ナル精神ヨリ作成セルモノニシテ若シ其ノ内容ニシテ發表サレンカ國論ハ必スヤ沸騰シ政府ハ甚タ困難ナル立場ニ陷ルヘキコト豫想ニ難カラス然ルニモ不拘日本政府ニ於テ右程度ノ提案ヲ作成シタルハ會商ノ圓滿ナル妥結ヲ圖ラントスル誠意ニ出テタルモノナリ然ルニ本月六日附蘭國回答ハ日本政府ニトリテハ不滿足ニシテ此ノ程度ノモノナラハ協約ヲ締結スル基礎トシテハ不充分ナリ右ノ理由ニ依リ政府ハ自分ニ對シ閣下ニ面會ノ上閣下ノ愼重ナル再考ヲ促シ以テ蘭側カ協約ノ基礎トスルニ足ルヘキ一層讓歩的回答ヲ與フル様取計ハレンコトヲ要求スル様訓令越シタリ若シ閣下ニシテ再考ノ餘地ナシト言ハルルニ於テハ自分ハ日本政府ノ訓令ニ基キ今次會商ノ打切ト自分及隨員ノ引揚ヲ通告スル次第ナリト述ヘタリ（以上ハ間違ナキヲ期スル爲書物ニシテ朗讀セリ）

總督ハ右ニ對シ蘭側ノ回答ハ愼重ニ審議セル結果ニシテ最早再考ノ餘地ナシ

自分ハ蘭側回答ヲ基礎トスル協約ニ對シ兩國責任者カ調印シ得ル

S 2.2.0.0-16　2212

S 2.2.0.0-16　2213

B-0156

0196

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records http://www.jacar.go.jp/

外機密

電信寫

コトヲ期待シ居リタルモノナルカ日本側ノ滿足ヲ得ル[illegible]ル
ハ遺憾乍ラ又已ムヲ得サル所ナリ乍然今回ノ會商ニ依リ[illegible]
解カ日本側ニ對シ明カトナリタルハ有益ナリト思考シ居レリト答
ヘタリ次デ（引言）本使ハ十六日國民参議會ニ於ケル閣下ノ演説及六日蘭
回答中ニハ日蘭印間ノ通常ノ經濟關係ヲ維持スルコトハ蘭印ノ希
望スル所ナル趣旨現レ居ル處右ハ日本側ニ於テモ同様ナルニ付會
商打切後ト雖今次會商ノ議題トナレル項目ニ付テモ必要ニ應シ隨
時石澤總領事ヲシテ交渉ニ當ラシムル用意アリト述ヘタル處[illegible]
ハ右ハ蘭側ニ於テモ同感ニシテ會商不成立ニ依リ日蘭間ニ悪感情
ノ生スルコトハ之ヲ欲セサル次第ニシテ通常ナル經濟關係ノ維持
ハ蘭側ニ於テモ欲スル所ナリト答ヘタリ（終）

S 2,2.0.0-16 2214

B-0156

0197

外機密

電信寫

0497

1475

昭和16　十六七四二　（電）　バタヴィア　六月十七日後着

本　省　　十八日前着

松岡外務大臣

蘭第二四二號ノ二（至急、暗長符號扱）

依テ本使ハ別電共同「コンミュニケ」發表ノ有益ナル旨ヲ示唆シタル處總督之ニ同意シ日本側ノ好意ヲ多トスル旨答ヘタリ本使ハ引續キ關係トシテハ其ノ間答中ニ示サレタル輸出物資ノ數量ハ會商打切ニ拘ラス日本ニ對シ供給ヲ續ケラルルモノト了解スル處如何ト質シタル處總督ハ兩側問答ニ明示セル條件ニ從ヒ供給スルコトニ異議ナシト答ヘタリ仍テ本使ハ日本側トシテモ會商打切ニ不拘兩國間ヲ結ヒ重要ナル砂糖其ノ他數種ノ產物ハ勿論ノ

S 2,2,0,0 -16　2215

0498

1475

評スル處リ大體ニ於テ我方覺書記載ノ程度ノ數量ハ輸入スル積リナルカ（來簡事項貿電第三一八號）詳細ハ石澤總領事ト經濟省間ノ話合ニ讓ルコトトスヘシト述ヘタル處總督ハ謝意ヲ表シ居リタリ

（ママ）次ニ本使ヨリ石油ニ對スル關係問題ハ先般特ニ關係者ヲ伊藤（ママ）ニ派遣シ今次會商ニ於テ一括討議スルコトニ同意セル次第ナルカ會商打切リトナルモ本件丈ケハ石油關係者ヲシテ關係者ノ他ノ關係者ヲシテ關印政府ト交渉ヲ續ケシムルコトト致度ト強調セル處總督ハ貴使ノ希望ハ自分ニ於テ之ヲ容ルルコトト致スヘキモ交渉ノ爲居殘ルヘキモノハ「コンマーシヤル・ビーフルス」ノミヲ許可スヘシト答ヘタリ（了）十

S 2,2,0,0 -16　2216

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外機密

電信寫

昭和16　一六七四一　平　バタヴィア　六月十七日後発
本省　六月十八日前着

松岡外務大臣宛　在バタヴィア　芳澤代表

（別電）
會商第二四四號（別電、館長符號扱）

Both Japanese and Netherlands Delegations greatly regret that economic negotiation which has been conducted between them has unfortunately come to no Satisfactory result. It is needless however to add that discontinuation of present negotiation will lead to no change of normal relations between Japan and Netherlands Indies.

S 2.2.0.0-16　2217

B-0156

0199

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信寫

特扱

昭和16年　一六七二三　平　バタヴィア　六月十七日後發
本省　十七日夜着
暗　通　號

松岡外務大臣　芳澤代表

第二四一號

通告濟

外務省

S 2.2.0.0-16

往電寫

極秘

外機密

總番號	符號	昭和十六年六月十八日後二時五〇分發	主管
二二五二八 二二五二九	（暗）		南一

在米　野村大使
在蘇　建川大使
松岡外務大臣

日蘭印會商打切及芳澤使節ニ對スル歸朝命令ニ關スル件

合第一二六四號　急

往電合第一二四〇號ニ關シ

蘭側回答ノ内容ハ甚タ不滿足ニシテ我方ニ於テ應諾スヘキ限リニ非サルノミナラス假令會商ヲ打切ルモ我方ニ於テ殊更蘭側ヲ挑發スルカ如キコト無キ限リ我方ニ對シ實質上左程大ナル反動無ク殊ニ蘭印產物資ノ獲得自由ナラサル現狀ニ於テハ本邦品ノ

電信課作成

S 2.2.0.0-16

B-0156
0220
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

輸出モ事實大ナル意味無ク又物資獲得ニ付テモ蘭側ノ不要トス
ル物資ハ蘭側ガ現ニ申出テ居ル程度ノ數量ハ假令協定成立セ
ストモ普通ノ商取引ニ依リテ買付ケ得ヘシト思考セラルルニ依
リ今次會商ヲ打切ル腹ヲ定メ唯外交上ノ手段ヲ盡ス爲更ニ芳澤
代表ヲシテ爲念總督ニ對シ再考方促サシメタルモ總督ハ再考ノ
餘地無キ旨回答セルニ依リ玆ニ會商ヲ打切ルコトニ決シ芳澤代
表及代表部全員引揚タルコトトナレリ

本電宛先　蘭領往電通リ

蘭領往電通リ轉電及暗送アリ度シ

秘

栗山事務官
根岸事務官
水田領事

V、日蘭印會商經過目次（前承）

昭和十六年六月十八日現在　南洋局第一課

一、我方交渉方針

二、我方第二次案提出

入國、企業、交通、通信問題等ニ關スル我方第二次要求

三、物資買付問題

四、物資買付案提出

蘭印物資買付ニ關スル我方提案

五、石油交渉

石油地權ニ關スル我方提案

六、蘭側要人ノ談話

七、東京ニ於ケル工作

（一）大橋次官「パブスト」公使會談

（二）松岡大臣「タレーギー」大使會談

要再閲

三宅

B-0156
0201
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(三)大橋次官「クレーギー」大使會談
八、同盟通信ニ關スル蘭側抗議
九、彼我新聞論爭
十、蘭側回答提出
十一、會商打切

外務省

(日本標準規格B5)
S 2,2,0,0 -16

2222

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一九

我方交渉方針

前記石澤「ホ」會談ハ今後芳澤「モ」兩代表間ニ行ハルヘキ會談ノ地均トシテ行ハレ居ルモノナルヲ以テ我方ニ於テハ我方要求ノ全面的貫徹ヲ期スルハ至難ノ業ナルヘキモ我方トシテハ今暫ク歐洲戰爭ヲ中心トスル國際政局ノ推移ヲ見守リ、充分之ヲ利用スルノ要アリ今本件交渉ヲ有利無理ニ終ラシムルトキハ內外ニ與フル惡影響甚タ大ナリ、殊ニ入國企業等ノ問題ニ關シ軟化ノ態度ヲ示シ妥協スルトキハ蘭側ノ思フ壺ニ嵌リ爾餘ノ問題ニ付テハ仍「パタビア」日本總領事ヲ通シテ交渉セハ足ルトテ之ヲ我代表部追出ノ口實ニ利用スヘシ

他方我方ニ於テハ重要物資ニ付內地在庫量手薄ナル事情アルノミナラス蘭印輸出入ノ見當付カサレハ我方物動計畫モ立タサル次第ナルヲ以テ重要物資ノ確保ハ焦眉ノ急ニ迫ラレ居ル實情ナリ依テ我代表部ハ飽迄モ居殘リ今後ハ先ツ交渉ノ重點ヲ漸次通商問題

殊ニ重要物資獲得ニ移行シ之ヲ先決スルト共ニ入國、企業等ノ問題ニ關シ我要求原案ハ孰迄ニ之ヲ「フツシュ」スルノ方針ナリ

之ヨリ先石澤「ホ」間下交渉ノ結果入國企業問題ニ關スル蘭側ノ態度モ大体見極メ付キタリトテ代表部ヨリ右問題ニ關スル妥協案提出ノ可否ニ付請訓アリタルヲ以テ妥協案提示ハ差控ヘ大体右ノ方針ニテ進ム樣回訓アリタル次第ナル處芳澤代表ヨリ政府ノ意向傳メノ爲一時歸朝致度旨仄カシ來レリ右ニ對シテハ松岡大臣訪獨伊ノ爲留守中ノコトニテハアリ旁右方針ノ下ニ引續キ現地ニ留マル樣要請ノ次第アリタリ

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

秘

昭和十六年六月十八日

外務省通商局第六課長
鈴木六郎殿

三井物産株式會社

拝啓　益御清祥之段奉賀候　陳者
一、輸印護謨情報
輸印護謨ニ就キ
一、七月積輸出許可半減サレタル理由
二、七月積輸出許可増量方交渉ノ事
三、八月以降ノ輸出許可ノ見込
右ノ三項弊社バタビア支店ニ對シ照會仕候處本日左記ノ通リ電有之候間御報告申上候
六月十七日バタビヤ出電（十八日入電）

東京市日本橋區室町貳丁目壹番地壹
三井物産株式會社營業部
副部長　橋本忠司

査照 謀課 員課

三井物産株式會社

「輸印當局ノ當方ニ對スル極秘說明ニ依レバ當初輸印護謨日本送リ許可數量一年一九八〇〇キロトン査定上半年許可濟九八〇〇キロトンヲ控除七月以降毎月一、六五〇キロトン許可ノ腹案ナリシモ當初佛印護謨一年三五〇〇後四〇〇〇キロトンニ增加セリト信ズベキ情報アリ　依テ輸印護謨一五〇〇〇キロトンニ削減本年中許可發五一〇〇キロトン供給ヲ認メントスルモノナリ　本問題ハ日輸會商ニ於テ最重要議題トシテ討議セラレ輸印數量增加拒絶ノ爲メ正ニ會商全ク行惱ミツツアルモノニシテ會商ニ於テ輸印護謨ヲ見ザル限リ當方交涉ノ餘地全然ナシ」

右申上候

匆々

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

暗

昭和十六年六月二十日後八時發

爪哇糖買付方ニ關スル件

在バタヴイア 石澤總領事

松岡外務大臣

第三二五號 極秘

往電第三一八號ニ關シ

先ツ砂糖十萬噸（往電第二七〇號ノ一萬二千噸ヲ含ム）三井及三菱ヲシテ買付ケシメ六月ヨリ十月迄ニ定期船（内地揚）及臨時船（臺灣揚）ヲ以テ積取ルコトニ決定セリ

然ルニ右ハ蘭側接收後回答ニ於テ希望セル數量ヲ超過スル次第ナルニ付要スレハ蘭印政府ニ對シ日本側トシテハ交渉妥結セサルモ買付方提案セル物資ハ莫大ナル支障起ラサル限リ買付クル方針ナリト說明ヲ與ヘラレ蘭側回答揭記ノ重要物資ニ對スル輸出許可發給ヲ迅速ナラシムルコトト多少ノ增量（錫鑛及錫ニ付テハ至難ナルヘキモ）ヲ承諾セシムル手段ニ利用方法御配慮相成度

外務省

倘本件買付ニ關スル詳細ナル指令ハ三井及三菱當地支店ヨリ貴官ニ報告ノ筈ナルニ付御承知相成度

本電總代表部ヘ交付アリ度

「スラバヤ」ヘ轉電アリ度

外務省

B-0156
0205
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外機密

電信寫

昭和16 一七二四八 （暗）バタヴイア 六月二十一日後發
松岡外務大臣
本省 二十一日夜着
第五二四號
石澤總領事

貴電第二九八號、第二九九號及代表苑會商第一三八號ニ關シ（關
印錫買付契約方ノ件）
錫、滿俺及「ボーキサイト」ノ契約竝重方ニ付テハ會商中屢々蘭
側ノ反省ヲ求メタルカ蘭側ハ右契約ノ存在ヲ否定ハセサ
ルモ利敵行爲防止ノ見地ヨリ國家權力ヲ發動シテ輸出量ヲ限定セ
ルモノナレハ考慮ノ餘地ナシト主張シテ讓ラス會商打切リノ今日
本件ヲ蒸シ返スモ效果ナキコト明カナレハ後日適當ノ機會ヲ待チ
更ニ努力スルコトト致度シ（了）

通

B-0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/